

太宰府市の文化財 第23集

# 大宰府条坊跡 VI

— 第 138 次調査 —

1994

太宰府市教育委員会

太宰府市の文化財 第23集

# 大宰府条坊跡 VI

西日本鉄道五条駅舎改築に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1994

太宰府市教育委員会

## 序

本書は、西鉄五条駅舎改築に伴い発掘調査いたしました埋蔵文化財の報告書であります。発掘地点のあります五条地区は大型店舗が早くから進出し、近年には大規模な集合住宅が立ち並ぶなど、太宰府市のなかでも最も賑わいをみせる地域の一つであります。近くには大学や短期大学が多く、この五条駅を利用する人々はかなりの数に昇っております。

さて、今回の発掘調査では、中世の大宰府を窺うことのできる資料が発掘され、過去の近隣での調査と併せてこの地域が当時大きな集落の一角であったことを窺わせるものであります。具体的な様相はこれからの周辺部分の調査に期待せねばなりません。この地域は当時もかなりの賑わいをみせていたのではないかと想像されます。

ささやかな冊子ではありますが、本書が文化財に対するご理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に全面的協力をいただきました西日本鉄道株式会社、発掘及び整理作業に参加されました作業員、補助員の方々にお礼申し上げる次第であります。

平成6年3月

太宰府市教育委員会  
教育長 長野 治 己

## 例 言

1. 本書は、西日本鉄道株式会社五条駅駅舎改築に伴う大宰府条坊跡第138次調査の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査地点は、太宰府市五条1丁目2476-2で、開発面積は259.2㎡、発掘調査面積は180㎡である。調査は平成5年4月1日から6月7日まで実施した。
3. 調査は、太宰府市教育委員会主任技師の狭川真一と補助員の河田聡が担当し、技師の塩地潤一と補助員の井上信正の協力を得た。
4. 遺構の実測図作成及び写真撮影は、上記担当者及び井上が行い、調査地の空中写真は(株)空中写真企画(代表 榎 睦夫)をお願いした。
5. 遺構実測の基準点は、国土調査法第Ⅱ座標系によっている。したがって、報告書中に示す方位はすべて座標北(G. N.)である。
6. 遺物の実測図作成及び浄書は、鶴味加代子、境一美、井上、河田が行い、狭川が補足した。また、遺物の写真撮影は狭川が行った。なお、今回は土器・陶磁器のすべての資料で写真の掲載ができなかった。将来周辺の関連地区を報告する際に再度掲載を検討したい。
7. 本書に使用した陶磁器の分類は『大宰府条坊跡Ⅱ』付録掲載のものによっている。なお、陶磁器の選別記録作業は山本信夫の助言を得て河田が行なった。
7. 遺物の保存処理作業は、木製品の一部を奈良大学保存科学研究室に委託し、鉄製品の応急処置は補助員の山中幸子が行った。
8. 出土した種子等の分析は、バリノ・サーベイ株式会社に委託し、結果報告を併載した。
9. 本書の執筆は、Ⅲ章を河田が草稿を起こし狭川がそれに補筆したほか、Ⅳ章の分析部分を除いて狭川が行った。
10. 本書の編集は、河田の協力のもと狭川が担当した。

## 目 次

I. はじめに	1
II. 調査経過	4
III. 調査の概要	6
(1) 検出遺構	6
(2) 出土遺物	13
IV. 自然科学分析	38
V. 調査のまとめ	40

## I. はじめに

大宰府条坊跡は古代大宰府中樞部の南側前面に広がる都市遺跡で、その存在の指摘は昭和43年に発表された鏡山猛の「大宰府都城の研究」によってなされた。その案によると大宰府政庁を都市の中央北辺に置き、南北二十二条(2.4km)、東西各十二条(2.6km)にも及ぶもので、この範囲は現在の太宰府市街地をほぼ包み込むだけでなく、南は筑紫野市の一部にまで及ぶ広大なものである。

さて、この遺跡の発掘調査は九州歴史資料館が大宰府史跡発掘調査のなかで機会があるごとに進められていたが、昭和54年度から実施された観世音寺土地区画整理事業を発端として、大宰府市教育委員会が調査に着手してからは調査面積も拡大し、発掘地点も推定範囲全域に及ぶようになったため、多くの発見が相次ぐようになった。しかも近年では筑紫野市教育委員会においても精力的な調査が実施されるようになったことから、大宰府条坊跡に関連するデータはかなりの数に昇っている。

こうした成果に立脚し、近年いくつかの論が発表されているところであり、先に鏡山が提示した案をそのまま適応することは困難な状況になってきつつある。

ところで、大宰府条坊跡と呼称する遺跡はひとり古代に限っているわけではなく、その前後の遺構も少なからず残存している。なかでも中世の遺構には目を見張るものがあり、梵鐘の鋳造を中心とした生産遺跡である鉾ノ浦遺跡は、大宰府条坊跡第47次調査として実施したものである。また、現在の市役所周辺から大宰府天満宮にかけては中世の大きな居住空間が発掘調査されつつあり、中世都市と呼ぶに相応しい景観を提示しつつある。

今回報告の対象となる第138次調査地点はこの中世都市部分の中程にあたり、過去に九州歴史資料館が調査した大宰府史跡第33次調査地点の隣接地でもある。

大宰府史跡第33次調査ではSD605とする13世紀中頃から14世紀前半の南北方向の大溝が検出された。当時条坊地区内の調査は皆無に等しくその様相は全く知られていなかったが、この溝が大宰府政庁中軸線から108m間隔で分割した場合、ちょうど当て嵌まる位置に検出されたことから、この溝が大宰府条坊の痕跡ではないかと考える意見が提示されていた。しかし、溝の年代が中世まで下ることから疑問点も提示されていた。この後大宰府条坊跡第37次調査でこの溝の北延長上を調査したが溝は検出されず、先の見解に対して否定的な立場を取らざるを得なくなった。SD605は大宰府史跡第33次調査と大宰府条坊跡第37次調査の間でいづれかの方向に曲がっているか、延長されず止まっているかのいづれかであろうと考えられた。この問題の解決は今次の調査が一つの解答を与えてくれた(第V章参照)。

この五条駅近辺の調査では先に掲げた鉾ノ浦遺跡の北側で調査した大宰府条坊跡第137次調査では、この地区では初めて平安時代後半の条坊痕跡と見られる溝(道路)遺構が検出された。遺



Fig. 1 太宰府市周辺の遺跡分布図 (1:30,000)

- |                        |                         |                  |               |              |
|------------------------|-------------------------|------------------|---------------|--------------|
| 1. 太宰府壘坊跡<br>(Aが1跡次調査) | 12. 御笠軍団指定地             | 23. 太宰府天満宮跡遺跡跡   | 35. 吉ヶ原遺跡     | 47. 橋田山遺跡    |
| 2. 白り目遺跡               | 13. 正虎遺跡                | 24. 安楽寺(太宰府天満宮)  | 36. 觀世音寺      | 48. 市ノ上遺跡    |
| 3. 菜原遺跡                | 14. 大野城跡                | 25. 太宰府天満宮境内地視察碑 | 37. 遠賀軍団指定地   | 49. 般若寺跡     |
| 4. 成原形遺跡               | 15. 菅原城跡                | 26. 馬場遺跡         | 38. 前田遺跡      | 50. 峯遺跡      |
| 5. 瀬ノ田遺跡               | 16. 推定金光寺跡              | 27. 新町遺跡         | 39. 上川久保遺跡    | 51. 二日市中学校遺跡 |
| 6. 陣ノ尾遺跡               | 17. 西王子D跡塚              | 28. 横島遺跡         | 40. 藤川遺跡      | 52. 通り西遺跡    |
| 7. 松本遺跡                | 18. 西王子C跡塚              | 29. 高尾山城         | 41. フヶ遺跡      | 53. 五穀神社遺跡   |
| 8. 筑前國分尼寺跡             | 19. 水原山跡塚               | 30. 石穴遺跡         | 42. 尾崎遺跡      | 54. 御笠川南未坊遺跡 |
| 9. 筑前國分寺跡              | 20. 原遺跡<br>(原山無量寺, 原跡塚) | 31. 高橋古墳群        | 43. 野口, 藤原谷遺跡 | 55. 府知遺跡     |
| 10. 千尾遺跡               | 21. 船遺跡                 | 32. 下高尾古墳        | 44. 刺塚遺跡      | 56. 陣ノ河遺跡    |
| 11. 辻遺跡                | 22. 藤ノ城                 | 33. 今王2号墳        | 45. 唐人塚遺跡     | 57. 水城跡      |
|                        |                         | 34. 今王1号墳        | 46. 塚原寺       | 58. 杉城跡      |

構は南北路と東西路の交差点であるが、調査区南端には延長されないことから三叉路もしくは鏡型に曲がるものである可能性が考えられる。大宰府の平野の東端に近い位置でもあり、条坊端部の一様相を知る重要な地点といえる。また、この遺構埋没後は中世の建物群が展開している。

このように西鉄五条駅周辺の調査は、中世の大宰府を解明するうえでかなり重要な位置を占めるものと考えられる。

これら周辺での過去の調査は残念ながら諸事情で報告が遅れているが、先に記した鉢ノ浦遺跡のほか Fig. 2 に示すような地点がこの地域での調査地点である。整理が進行すれば中世の大宰府の側面が明らかになるものと考えている。

今次の調査地点近辺は、太宰府市内の中でも開発が早く行われた地域であるが、遺構は幸いにして未だ地下に残っている。しかしながら再開発による地下遺構の危機が迫っている地域でもあり、機会のある毎に調査を実施してゆかねばならないことを痛感するものである。

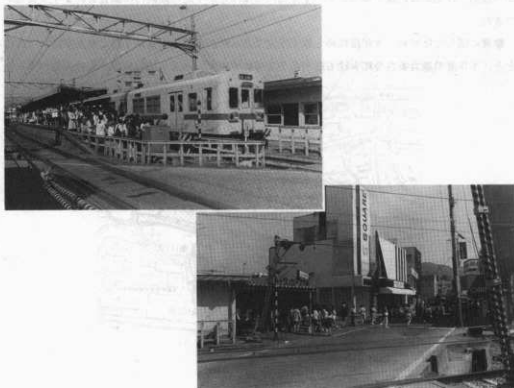


Fig. 2 五条駅の朝 (1993年4月)

## Ⅱ. 調査経過

西鉄五条駅の現状は、Fig. 3に見るように朝の通勤時間は福岡方面へ出勤するサラリーマンで混雑し、その直後から近接する大学等へ通学する学生で溢れ返る。夕刻にはこの逆の現象が必然的に生じ、この混雑の緩和は急務とされていた。

この五条駅舎改築の計画は、西日本鉄道株式会社から太宰府市に持ち込まれ、併せて太宰府市教育委員会と埋蔵文化財の有無について協議が持たれた。教育委員会では周辺における過去の調査実績から当該地点に文化財の存在することは確実と判断し、開発に先だって発掘調査の必要がある旨回答した。その後、協議を重ねた上、平成5年度当初に契約を締結した。現地での発掘調査は平成5年4月1日から6月7日まで実施した。

調査期間中思わぬ大雨に見舞われ、調査区の壁が随所で崩落し、調査を完了した部分も再び埋没するという状況になり予定以上の期間を要するようになった。しかしながら近接する調査現場から技師、作業員の応援を得ることができたためなんとか予定の期間内に調査を終了することができた。

整理に関しては当初、次年度に持ち越す予定であったが、遺物の量が予想よりも少なかったことと、本年度の教育委員会における整理の予定にわずかながら差し扶む余地が見い出せたことか

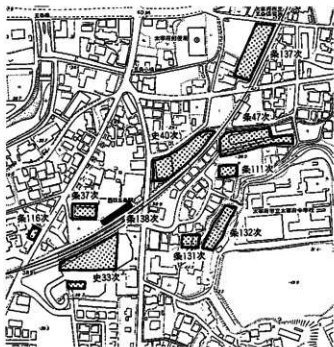


Fig. 3 五条駅周辺の既調査地点 (史=大宰府史跡関連)



ら、再度協議を行い平成5年度中に整理、報告の作業を完了させることで話がまとまった。したがって調査、整理ともに平成5年度事業として実施することとなった。なお、調査及び整理に伴う費用はすべて西日本鉄道株式会社が負担した。

調査及び整理の関係者は以下のとおりである。

調査主体	太宰府市教育委員会		
総括	教育長	長	野 治 己
庶務	教育部長	中	川 シゲ子
	文化課長	花	田 勝 彦
	埋蔵文化財係長	高	田 克 二
	主任主事	川	谷 豊
	主任技師	山本 信夫、狭川 真一、城戸 康利、山村 信榮	
	技 師	中島恒次郎、塩地 潤一	
	嘱 託	田中 克子、重松麻里子（平成5年6月～）	
		井上 信正（平成5年7月～）	

調査及び整理参加者

(調査補助員)	井上 信正（～平成5年6月）			
(整理補助員)	河田 聡			
(発掘調査作業員)	藤原 重登	小島 国春	野見山敏行	中尾 芳孝
	萩尾 泰祐	山下 澤子	吉田 正子	渡部ひとみ
	栗山ヒロ子	中尾ニリ子	斎藤サヨ子	山本 洋子
	岩男 澄子	宇田川操子	金子タケ子	大田 敬子
	大田八重子	太田ヤス子	境 美佐子	隅田 久子
	柴田ツキエ	高木 宗代	高鍋キミヨ	中野 洋子
	宮原ハナエ	古川 民子	宮原 圭子	古川トミ子
	古川ヨシ子			
(遺物整理作業員)	野田 美子	中村 房子	林 美知子	小西 晴代
	武堂 年子	境 一美	鷗味加代子	柴田 剛

### Ⅲ. 調査の概要

#### (1) 検出遺構

調査区は北東から南西方向へ線路に並行するような形で細長く斜めに設定された。調査直前の地表面は仮設の駐輪場であり、ガラスが蒔かれていたがその直下は駅周辺の開発時に持ち込まれた真砂土が約1.5mもの深さで積まれていた。それを除去すると近年まで使用されていた水田面が顔を出す。その後茶色土層とした包含層が薄く堆積し、それを除去すると暗黄灰色で砂混じり粘土の地山が露出する。遺構はすべてこの地山から穿たれている。しかし、井戸の深さなどからみて本来の生活面は今の遺構面よりも高い位置にあったと見るべきであろう。

調査の結果、中世の溝、土壇、井戸などが検出されたが、遺構および層位中からこの時期以外の遺物は検出されなかった (Fig. 6)。

#### 1. 溝

138SD001 調査区西側で検出された幅約1.4m、深さ約0.3mの東西溝で約7.6m分を検出した。138SD010の埋設後にこれと同軸方向に掘られた溝であ

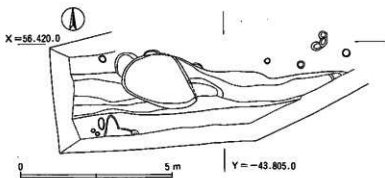


Fig. 4 138SD001実測図

り、138SD010と機能を同じくするものと考えられるが、規模は著しく縮小されている。堆積土層は暗茶色土の単一層であり、漏水状況は認められなかった (Fig. 4)。

138SD010 調査区の西側を東西方向に通る大溝で、138SD001が埋土上面から穿たれる。南側の立ち上がりは調査区外に出てしまうため確認できていない。調査区内で調査し得た溝の検出長は約7.65m、検出幅は最大で約1.2mで溝の深さは東側で約0.34m、西側で約0.68mを測るが、溝底を完掘していないので流れの方向は確認できなかった。



- |          |          |
|----------|----------|
| 1. 暗茶色土  | 5. 灰層    |
| 2. 淡茶灰色土 | 6. 暗灰色土  |
| 3. 灰色土   | 7. 青灰色粘土 |
| 4. 黄茶色土  | 8. 黒灰色砂土 |

※1は138SD001埋土

Fig. 5 138SD010堆積土層模式図

埋土は最下層に厚く黒灰色砂層が堆積し、その上に流木や種子などを含む青灰色粘土層が堆積しているため、この段階までは自然堆積であると考えられる。また最下層の黒灰色砂層及び青灰色粘土層の存在から、当初は若干の流れをもっていただけと考えられるが、その上層 (暗灰色土層、



黄茶色土層)では、部分的な炭層や土器の小溜まりなど人為的な廃棄と考えられるものが確認されたため、この段階では流れはなく澱み状になっていたと考えられる。最終埋没は灰色土層、淡茶灰色土層で構成され、これらは人為的に埋め戻された可能性をもつ (Fig. 5)。

出土遺物は各層より散在的に検出されたが、時期差はほとんど認められなかった。

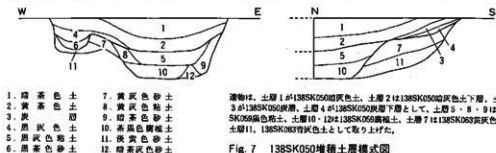


Fig. 7 138SK050堆積土層模式図

## 2. 土 塚

138SK005 調査区西側で検出した土塚で、138SD001溝に切られ、138SD010大溝を切っている。土塚の規模は直径約2.3mの楕円形で、深さ0.43mを測る。埋土は暗茶色土の単一層である。

138SK015 138SK031に切られる形で検出されたが、今次の調査では全体形を知るには至らなかった。土塚の規模は、直径約1.8m内外、深さ約0.8mの略円形を呈するものと思われる。埋土は上から淡茶色土層、暗茶色土層、黒灰色土層の順で堆積し、最下層の黒灰色土層には炭化物を多く含む。

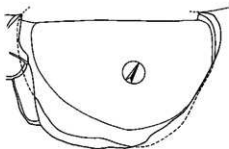
138SK020 調査区中央付近で検出した楕円形の土塚で、全体の約半分は調査区外となる。直径約2.8m、深さ約0.9mを測る。土塚の壁面はややオーバーハングし、断面形状はフラスコ状を呈していたものと思われる。

埋土は大きく三層に分かれ、上から暗茶灰色土層、黄灰色砂層、青灰色砂層の順で堆積する。最下層である青灰色砂層は、土塚使用中または直後に堆積した埋土と考えられ、その後に土塚の壁の崩落によるとみられる地山と類似する黄灰色砂層が薄く堆積する。土塚の最終埋没である暗茶灰色土層は他層に比べて厚く、また分層できたものの同質の堆積と判断され、土塚壁面の崩落後の堆積でもことから土塚廃棄後に一気に埋め戻された可能性が強い (Fig. 8)。

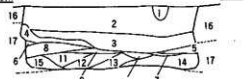
138SK024 138SK031の西側で検出された楕円形を呈する土塚で、今次の調査では全体形を知るには至らなかった。径1.8m内外、深さ約0.25mを測る。埋土は淡茶色土層を主体とするが同層除去後に薄い炭層が検出された。

138SK025 138SK024の北西で検出された楕円形を呈した土塚で、今次の調査では全体形を知るには至らなかった。径2.0m内外、深さ約0.25mを測る。埋土は灰茶色土層からなるが同層除去後に薄い炭層が検出された。

138SK020



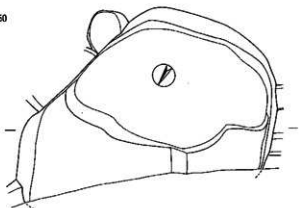
37.00m



- |              |           |            |               |
|--------------|-----------|------------|---------------|
| 1. 黒茶色土(ピット) | 6. 暗黄茶色土  | 11. 暗青灰色粘土 | 16. 暗黄灰色土(地山) |
| 2. 暗茶色土      | 7. 暗茶色粘土  | 12. 暗青灰色土  | 17. 暗茶灰色土(地山) |
| 3. 暗茶灰色土     | 8. 灰茶灰色土  | 13. 明灰色砂土  |               |
| 4. 暗黄灰色粘土    | 9. 暗灰色砂土  | 14. 暗青灰色砂土 |               |
| 5. 暗黄茶色粘土    | 10. 暗灰色粘土 | 15. 暗灰色黄土  |               |

遺物は土層2・3が暗茶灰色土として、土層4・5・6・7・8・9・10を黄灰色砂土として残りの層を青灰色砂土として取り上げた。

138SK050



37.30m

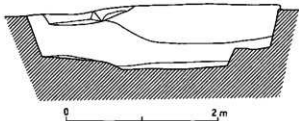


Fig. 8 138SK020・050実測図・土層観察図

138SK030 138SK015  
に切られる形で検出された土壌であるが、その大半は調査区外となるため全体の規模は不明である。

138SK031 調査区中央付近で138SK015を切る形で検出した土壌で、今次の調査では全体形を知るには至らなかった。土壌の規模は、直径約1.4m内外、深さ約0.7mの略円形を呈するものと思われる。埋土は大きく三層に分かれ、上から暗茶色土層、黒灰色土層、黒灰色砂質土層の順で堆積し、最下層である黒灰色砂質土層には炭化物を多く含む。

138SK050 調査区中央付近で検出した。調査し得た土壌の規模は長さ約3.4m、幅2.3mを測る不定形土壌で、その約半分は調査区外となる。土層は大きく四つに分かれ、上から暗灰色土層、暗灰色土層下層、炭層、炭層下層となる。138SK059・061・063土壌埋没後に穿たれたか、各土壌

の埋没過程でできた窪みを利用した廃棄土壌とも考えられる (Fig. 7・8)。

138SK059 138SK050土壌の堆積土を除去した後に検出された楕円形の土壌である。調査し得た土壌の規模は、長さ約2.1m、幅約1.1mを測るが、その約半分は調査区外となる。埋土は大きく二層に分かれ、上から黒灰色粘質土層、茶黒色腐食土層であり、これらの層からは多くの植物遺存体及び木製品が出土した。

138SK061 138SK050土壌の堆積土を除去した後に検出された土壌で、138SK063土壌を切って作られているが、138SK059土壌との間には切り合い関係は認められなかった。遺物はほとんど出土していない。調査し得た規模は、長さ1.0m、幅約0.4mである。

138SK063 138SK050土壌の堆積土を除去した後に検出された土壌で、138SK059及び138SK061に切られている。土壌の規模は長さ約1.5mの楕円形で、埋土は大きく二層に分かれ、上から黄灰色土層、青灰色土層である。

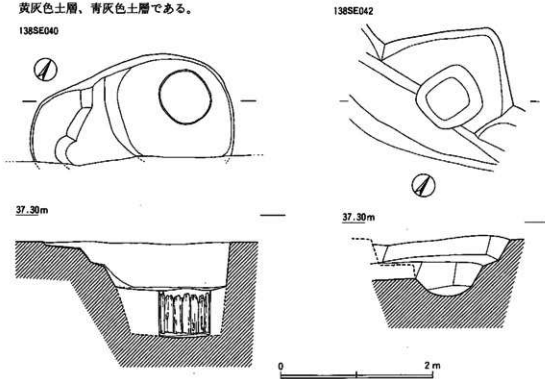


Fig. 9 138SE040・042実測図

### 3. 井 戸

138SE040 調査区北側で検出した井戸である。井戸の掘り形は、直径約1.6mの円形である。井戸の井筒部分を確認するまでの掘まりは暗茶灰色土層で構成され、遺物は上層として報告した。この暗茶灰色土層を除去すると井筒が確認された。井筒部分は木桶を用い、直径約0.6mの正円形で深さ約1.4mを測る。木桶は19枚で構成されている (Fig. 9)。

138SE042 調査区南側で検出した井戸で、138SD010溝に切られる形で検出した。掘り形は方形と考えられるが、全体の規模は明らかでないもの、掘り形上面は一辺1.2m程度に復原されよう。井筒部分は円形で直径約0.8m、深さ約0.8mを測る。井戸枠は残存していなかった。

138SE045 調査区北側で検出した井戸であるが、井戸の井筒部分を確認後、掘り形は未掘である。掘り形の直径は約4.1mの円形で、拳程度の小石を多く含む埋土であった。井筒部の直径は約0.8mの正円形で深さは約0.7mであり、枠は残存していなかった (Fig.10)。

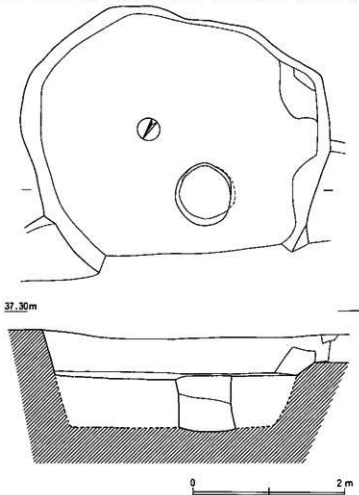


Fig.10 138SE045実測図

幅約0.65m、深さ約0.3mを測る。

138SX038 138SK015を切る形で検出されたビットである。長さ約0.5mを測る。

138SX043 138SK020と138SK031の間で検出されたビット群である。

138SX044 138SK020を切る形で検出された浅く細長い溜まり状遺構である。長さ約1.5m、幅

#### 4. その他の遺構

138SX011 調査区西側で検出された薄い不定形の溜まり状遺構で、長さ約1.4m、幅約0.7m、深さ約0.1mを測る。

138SX018 調査区西側で検出されたビットで、今次の調査では全体形を知るには至らなかった。径0.4m内外、深さ約0.2mを測る。

138SX034 138SD001と138SX011に切られる形で検出された不定形の溜まり状遺構である。埋土は大きく二層に分かれ、上から暗茶色土層、暗灰色土層となる。長さ約2.0m、

約0.6m、深さ約0.2mを測る。

138SX051 138SX044の埋土除去後に検出されたビットである。長さ約0.85m、幅約0.3m、深さ約0.2mを測る。

138SX052 138SK050の南側で検出された隅丸長方形のビットである。長さ約1.0m、幅約0.65m、深さ約0.15mを測る。

138SX062 138SK050を切る形で検出されたビットである。直径約0.5mを測る。

138SX064 138SK050に切られ、138SX073を切る形で検出された楕円形の溜まり状遺構である。直径約0.7m、深さ約0.15mを測る。遺物はほとんど出土しなかった。

138SX067 138SX064の埋土除去後に138SK050に切られる形で検出されたビットである。直径約0.3mを測る。

138SX068 138SK050に切られる形で検出されたビットで、今次の調査では全体形を知るには至らなかった。検出長約0.4m、検出幅約0.2m、深さ約0.2mを測る。

138SX073 調査区中央付近で検出した不定形の溜まり状遺構で、138SX064に切られる形で検出した。長さ約3.2m、幅約1.1m、深さ約0.2mを測る。

138SX086 調査区東側で検出されたビット群である。

## (2) 出土遺物

### 土器・陶磁器

#### 138SD001出土土器 (Fig.11)

##### 土師器

小皿 a (1~12) 糸切り。口径7.6~9.0cm、器高1.6~1.8cm。1~3は口径に対し器高が高めで小皿 bに近い形状を呈する。

杯 a (13~15) 糸切り。口径11.2~13.0cm、器高3.0~3.1cm。体部はすべて内湾気味で緩やかに立ち上がる。

##### 瓦器

鉢 c (16) 底径6.3cm。底部のみの小片である。

##### 須恵質土器

鉢 (17~21) 17は口縁を肥厚させつつ下方に若干垂れる。18は常滑系の摺鉢で、内面中位から指目が刻まれている。19は口縁部を肥厚させつつ、受け口状にわずかに屈曲させる。20は口径28.0cmを測る。口縁を肥厚させつつ、わずかに外反する。21は東播系の片口鉢で、口縁の一部を小さく外方につまんで片口につくる。29は須恵質土器の脚部のみの破片である。小片のため器形は不明。

##### 龍泉窯系青磁



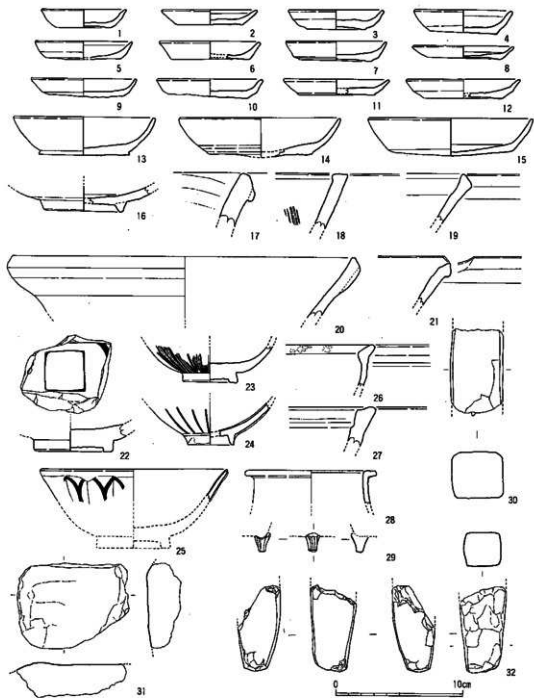


Fig.11 138SD001出土土器実測図

碗 (22~25) 22は内面見込みに角型の刻印を有する。底径6.3cm。Ⅰ類。23は底部片で、底径4.2cm。体部外面に片切彫で鎮蓮弁、楸目文を描く。Ⅰ-6類。24は底部と胴部の一部であるが、細目の鎮蓮弁を片切彫するものである。細かく小さめの高台がつき、透明感のある釉が内外面に厚く施釉される。底径3.8cm。Ⅲ-2類。25は幅広の鎮蓮弁が片切彫りされ、やや厚めの釉が内外面に施釉される。口径14.8cm。Ⅰ-5-b類。

#### 陶器

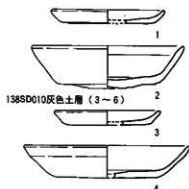
鉢 (26・27) 両方とも口縁の小破片である。26は体部上位で内湾し「く」字状に外反する口縁がつき、その内面に目跡を有する。Ⅲ-2類。27は口縁部の小破片である。淡灰褐色の粗い胎土に、淡灰黄色の釉が外面と口縁部内面に施釉される。Ⅰ-2-b類。

#### 白磁

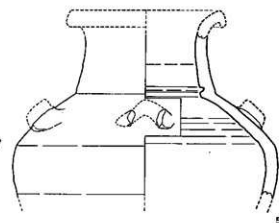
壺 (28) 口径10.4cm。口縁部を水平に屈曲する。微細な黒色粒子を多く含む灰白色の胎土に、乳白色に発色する釉が内外面にかかる。Ⅰ・Ⅱ類以外に分類される。

#### 土製品

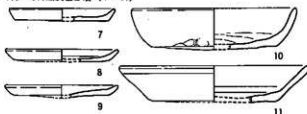
138SD010淡茶灰色土層 (1・2)



138SD010灰色土層 (3~6)



138SD010黒灰色砂層 (7~11)



0 10cm

Fig. 12 138SD010各層出土土器実測図

30・32は土師質の方柱状支脚である。31は土師質でやや軟質に仕上がる。用途などについては不明。

ここに報告した他に図示していないが白磁碗Ⅳ類、Ⅴ-4類、皿Ⅳ類、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-1類、Ⅰ-2類、Ⅰ-5-a類、皿Ⅰ類、同安窯系青磁碗Ⅰ-1-b類、皿Ⅰ-1類などが小片ながら出土している。

#### 138SD010淡茶灰色土層出土土器 (Fig.12)

##### 土師器

小皿 a (1) 糸切り。口径9.0cm。器高1.1cm。

杯 a (2) 糸切り。口径12.0cm。器高3.4cm。

この他に、図示していないが龍泉窯系青磁碗Ⅰ-4類、Ⅰ-5-b類が小片ながら出土している。

#### 138SD010灰色土層出土土器 (Fig.12)

##### 土師器

小皿 a (3) 糸切り。口径8.4cm。器高1.2cm。

杯 a (4) 糸切り。口径13.1cm。器高2.6cm。

##### 白磁

四耳壺 (5) 胴部最大径20.8cm。灰白色でやや粗めの胎土に、透明感のある青味がかった釉が内外面にやや厚めに施される。Ⅲ類。

##### 陶器

盤 (6) 黄釉陶器Ⅱ-2-b類。内面に褐釉で文様を施すが風化のため不明瞭。胎土は淡黄灰色で黒色粒、白色粒をやや多めに含み粗めである。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-5-b類が小片ながら出土している。

#### 138SD010黒灰色砂層出土土器 (Fig.12)

##### 土師器

小皿 a (7~9) 糸切り。口径8.4~9.0cm。器高1.0~1.1cm。

杯 a (10・11) 糸切り。10は口径13.0cm、器高2.9cm。内湾気味で緩やかに立つ体部をもち、体部下半に指頭痕がある。11はまっすぐに外上方に立ち上がる体部をもち、口径13.0cm、器高3.3cm。

#### 138SK005出土土器 (Fig.13)

##### 土師器

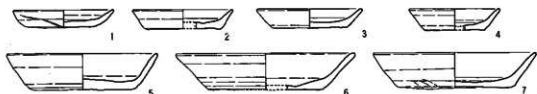
小皿 a (1~3) 糸切り。口径8.0~8.4cm、器高1.4~1.5cm、底径4.9~5.9cm。いずれもやや口径が小さく器高が高めである。1の体部には糸切り時の糸の痕跡が残る。

小皿 b (4) 糸切り。底径が小皿 a と比べ小さく、器高が高いため一応小皿 b とした。

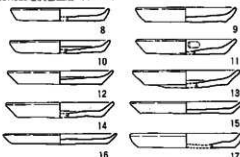
杯 a (5~7) 糸切り。口径12.0~14.2cm、器高2.8~2.9cm。

この他に図示していないが白磁碗Ⅳ類、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-5-b類が小片ながら出土している。

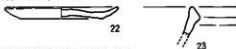
138SK005 (1~7)



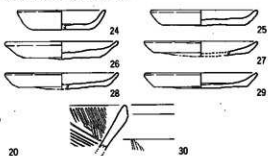
138SK020暗灰色土層 (8~20)



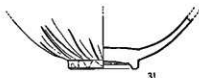
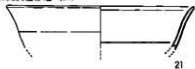
138SK024 (22・23)



138SK025灰青色土層 (24~31)



138SK020黄灰色砂層 (21)



138SK030 (32~37)

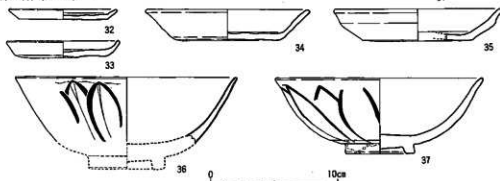


Fig. 13 138SK005・020・024・025・030出土土器実測図

138SK015淡茶色土層出土土器 (Fig. 14)

土師器

小皿 a (1) 糸切り。口径9.0cm。器高0.9cm。

杯 a (2) 糸切り。口径13.0cm。器高2.75cm。

龍泉窯系青磁

碗(3) 底径6.2cm。体部外面に蓮弁を有する。胎土は灰白茶色でやや粗めのものである。内外面に濃緑色の釉が薄く施釉される。1-5-a類。

瓦質製品

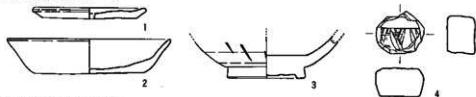
瓦玉(4) 長さ約3.8cm。布目と叩きの痕跡が上下にあるため平瓦の二次加工品と思われる。この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗1-5-b類、同安窯系青磁碗1-1-a類などが小片ながら出土している。

138SK015暗茶色土層出土土器 (Fig.14)

土師器

小皿 a (5~23) 糸切り。口径8.0~9.4cm、器高0.9~1.4cm。底部がやや厚めのもの(13・15)もある。

138SK015淡茶色土層(1~4)



138SK015暗茶色土層(5~29)

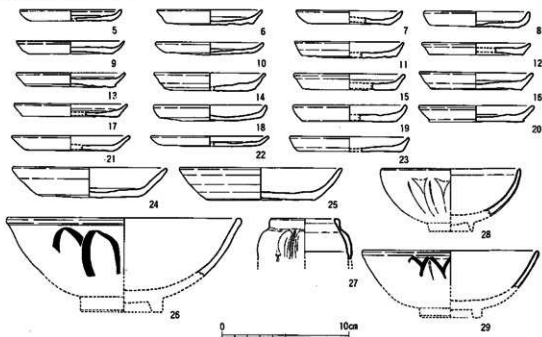


Fig.14 138SK015淡茶色土層・暗茶色土層出土遺物実測図

杯 a (24・25) 糸切り。口径12.2~12.4cm、器高2.4~2.6cm。

#### 龍泉窯系青磁

碗 (26・29) 26は口径18.5cm。体部外面にやや幅の広い蓮弁を有し、内外面にわずかに緑がかった透明な釉をやや厚めに施す。胎土は灰白色を呈しやや粗めで黒色微粒子をわずかに含む。I-5-a類。29は口径14.0cm。体部外面に錦蓮弁を有するものである。暗灰白色でやや粗めの胎土に、淡緑色の透明感のない釉を内外面に施す。I-5-b類。

小碗 (28) 口径11.05cm。体部外面にやや細目でにぶい錦蓮弁を有する。暗灰白色の粗い胎土に、淡緑色の厚い釉を内外面に施す。II-2類。

#### 青白磁

小壺 (27) 口径5.4cm。黒色微粒子をわずかに含んだ灰白色でやや粗めの胎土に、青味がかった透明で厚い釉をかける。施釉は全体になされるが口縁端部のみ露胎である。露胎部は茶褐色に発色する。

この他に図示していないが、白磁碗 K類、皿 V類、龍泉窯系青磁碗 I-2類などが小片ながら出土している。

#### 138SK015黒灰色土層出土土器 (Fig. 15)

#### 土師器

小皿 a (1~14) 糸切り。口径8.0cm~9.3cm、器高0.9~1.3cm。

杯 a (15~19) 糸切り。口径9.6cm~12.6cm、器高2.3~3.05cmを測る。15は口径に対し器高が高くやや小さめである。

#### 龍泉窯系青磁

小碗 (20) 口径13.0cm。黒色微粒子をわずかに含む暗灰色の細かな胎土に、淡緑茶色でやや厚めの釉を内外面に施す。口縁に輪花を有する。I-1-b類。

碗 (21) 口径17.4cm。錦蓮弁文の碗である。黒色微粒子をわずかに含む灰白色でやや粗めの胎土に、淡緑色の厚い釉がかかる。I-5-b類。

#### 陶器

小壺 (22) 褐釉の小壺である。口径3.6cm。きめ細かい胎土に、暗茶褐色の薄い釉を外面と内面上部に施す。

#### 青白磁

合子 (23) 口径8.6cm、器高1.6cm、底径6.6cm。黒色微粒子をわずかに含む茶白色の胎土に、黄白色の薄い釉がかかる。口縁外面、外面体部下位、外底部、内面上部は露胎で、施釉部との境が赤茶色を呈している。焼成はあまり良くなく、やや軟質に仕上がる。

#### 須恵質土器

鉢 (24) 東播系の鉢の底部片である。底径は不明。内外面に不定方向のナデを施す。

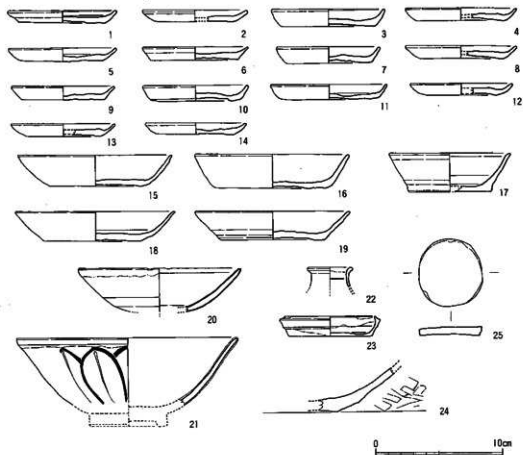


Fig.15 138SK015黒灰色土層出土土器実測図

**土製品**

25は直径6.2cm。土師器杯 a の底部を而取りしたもので、円盤状を呈している。用途などについては明らかではない。

**138SK020暗茶灰色土層出土土器 (Fig.13)**

**土師器**

小皿 a (8~17) 糸切り。口径7.8~9.0cm、器高0.8~1.4cm。

**須恵質土器**

鉢 (18, 19) 口縁部の小破片である。

**陶器**

水注 (20) 口径7.0cm。暗灰白色でやや粗めの胎土に、暗茶褐色の釉を内外面に施す。口縁部は断面三角形に肥厚させ、その先端部をわずかに外方に折り返す。V-2類。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗 1-2類、1-4類、1-5-a類、1-5-b類、Ⅲ類などが小片ながら出土している。

138SK020黄灰色砂層出土土器 (Fig.13)

白磁

碗 (21) 口径15.0cm。乳白色でやや粗めの胎土に、青味がかった白色の釉をやや厚めにかける。施釉は内外面になされるが口縁部のみ釉をかきとり露胎とする。また体部内面中位に一条の沈線が見られる。K-a類。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗 1-5-b類が小片ながら出土している。

138SK024淡茶色土層出土土器 (Fig.13)

土師器

小皿 a (22) 糸切り。口径9.0cm、器高0.9cm。

須恵質土器

鉢 (23) 東播系の鉢である。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗 1-1類が小片ながら出土している。

138SK025灰茶色土層出土土器 (Fig.13)

土師器

小皿 b (24) 糸切り。口径に対し器高が高いため一応小皿 b とした。口径7.0cm、器高1.5cm、底径4.4cm。

小皿 a (25~29) 糸切り。口径8.5~9.0cm、器高1.2~1.4cm。

須恵質土器

鉢 (30) 口縁部小片である。内面にハケ目を施す。

龍泉窯系青磁

碗 (31) 底径5.6cm。鎗蓮弁文の碗である。やや粗めで暗灰色の胎土に、淡緑色で半透明の釉を施す。釉は内外面に施されるが、畳付は露胎となる。1-5-b類。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗 1-5-a類が小片ながら出土している。

138SK030出土土器 (Fig.13)

土師器

小皿 a (32・33) 糸切り。口径8.6~9.0cm、器高0.8~1.3cm。

杯 a (34・35) 糸切り。口径13.0~13.3cm、器高2.5~2.55cm。

龍泉窯系青磁

碗 (36・37) 36は口径17.6cm。鎗蓮弁文の碗である。黒色微粒子をわずかに含む灰色の胎土に、やや厚めの淡灰緑色の釉を内外面に施す。1-5-b類。37は口径16.4cm、器高6.05cm、底径5.6cm。蓮弁文の碗である。白色砂粒を若干含む暗灰色の胎土に、暗緑茶色で薄めの釉を施す。釉



は全体に施されるが、盞付は露胎となる。I-5-a類。

この他に図示していないが、同安黨系青磁碗I-1-a類が小片ながら出土している。

138SK031暗茶色土層出土土器 (Fig.16)

土師器

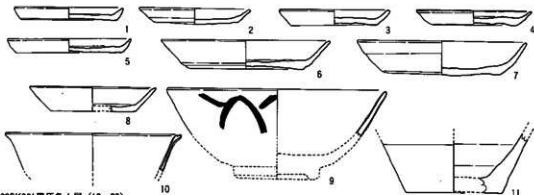
小皿a (1~5) 糸切り。口径8.6~9.8cm、器高1.0~1.25cm。

杯a (6・7) 糸切り。6は体部がほぼまっすぐに外上方に立ち上がる。7は体部中位でやや内湾する。口径13.4cm、器高2.3~2.6cm。

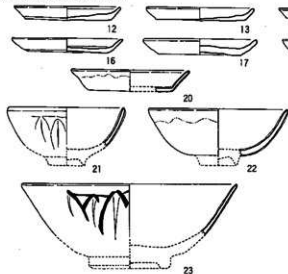
白磁

皿(8) 口径10.0cm、器高1.95cm、底径6.8cm。体部、口縁部はほぼ直線的に外上方に立ち上がり、口縁部は軸をかきとる。灰白色のやや粗い胎土で、乳白色の釉がやや厚めで全面に施釉さ

138SK031暗茶色土層 (1~11)



138SK031黒灰色土層 (12~23)



138SK031黒灰色砂層 (24~27)

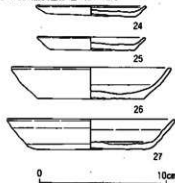


Fig.16 138SK031出土土器実測図

れる。K-1類。

#### 龍泉窯系青磁

碗(9) 口径17.4cm。体部外面にやや幅広い蓮弁を片切り彫りする。灰白色のやや粗い胎土で、淡緑色で透明感のある薄めの釉を内外面に施す。I-5-a類。

杯(10) 口径14.0cm。口縁端部を外反させ平坦な面を形成する。灰白色のやや粗い胎土で、内外面に施釉されているが釉は透明感がなく焼成もあまり良くない。III-1・2類。

#### 陶器

甕(11) A-b類。底径7.6cm。灰白色で黒色粒子を多く含んだ粗い胎土で、外面に淡茶緑色の釉がうすく施される。内面は露胎で褐色でやや大きめの粒子が付着する。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗I-5-b類、同安窯系青磁皿I-2類が小片ながら出土している。

#### 138SK031黒灰色土層出土土器 (Fig.16)

##### 土師器

小皿a(12~19) 糸切り。口径8.4~9.2cm、器高0.9~1.25cm。体部が外上方に真っ直ぐにのびるものと、やや内湾するものがある。

##### 白磁

皿(20) 口径9.4cm、器高1.7cm。体部、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。灰白色のやや粗い胎土で、乳白色のやや厚い釉が全面に施されるが口縁部のみ釉を欠き取る。K-1-b類。

#### 龍泉窯系青磁

小碗(21・22) 21は口径9.4cm。体部外面に鈍い鑄蓮弁をもつ。灰白色のやや粗い胎土で、青緑色の厚い釉を施す。内外面に大きめの貫入がある。III-2類。22は口径11.0cm。胎土は淡灰色できめ細かく、内外面に光沢のある淡緑色の釉を厚めに施す。III-1類。

碗(23) 口径17.0cm。体部外面に鑄蓮弁をもつ。灰茶褐色のきめ細かい胎土で、内外面に灰褐色で透明感のある釉をやや厚めに施す。I-5-b類。

#### 138SK031黒灰色砂層出土土器 (Fig.16)

##### 土師器

小皿a(24・25) 糸切り。口径8.5~8.7cm、器高0.8~1.0cm。

杯a(26・27) 糸切り。口径12.6~13.2cm、器高2.4~2.5cm。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗I-5-a類、I-5-b類が小片ながら出土している。

#### 138SK050暗灰色土層出土土器 (Fig.17)

##### 土師器

小皿a(1~5) 糸切り。口径8.6~9.4cm、器高0.8~1.3cm。

杯 a (6・7) 糸切り、口径12.8~13.8cm、器高2.3~2.4cm。両者とも体部を直線的に外上方へ開く。

鍋 (8) 体部は緩やかに立ち上がり、体部上方で外反し口縁端部をわずかに折り返す。体部外面には炭など炭化物が多量に付着する。

#### 須恵質土器

鉢 (10~12) 10は口縁部を肥厚させつつ口縁端部をわずかに折り返す。内外面ともヨコナデを施す。11は東播系の鉢で、内面は使用のため磨滅する。12は口径28.4cmで口縁端部をわずかに折り返す。調整は内外面に横方向のハケ目を、内面中位からは弧を描くように工具ナデを施す。

#### 陶器

盤 (9) 黄釉陶器Ⅱ-2-b類で、口径32.2cm、器高9.7cm、底径27.4cm。胎土は暗灰色で黒色粒、白色粒を多く含む粗めである。体部は丸味をおび、その内面及び外面上部に薄く施釉し、露

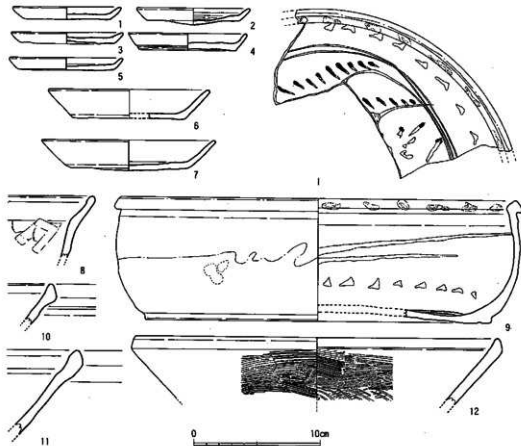
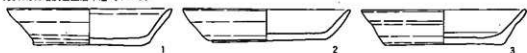


Fig. 17 138SK050暗灰色土層出土土器実測図

138SK050暗灰色土層下層(1~3)



138SK050炭層(4~19)

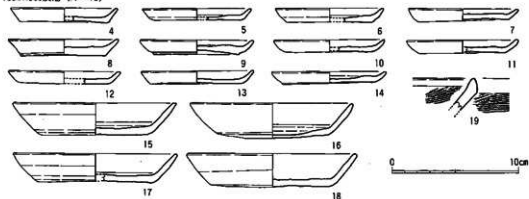


Fig. 18 138SK050暗灰色土層下層・炭層出土土器実測図

胎部は淡褐色に発色する。口縁部は肥厚させ玉縁状につくり、その端部は露胎である。外面露胎部及び口縁端部に目跡を有し、内面には褐釉による文様を施す。

他に図示していないが、白磁碗Ⅳ類、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-5類などが小片ながら出土している。

138SK050暗灰色土層出土土器 (Fig. 18)

土師器

杯 a (1~3) 糸切り。口径13.0~13.2cm、器高2.5~2.9cm。

138SK050炭層出土土器 (Fig. 18)

土師器

小皿 a (4~14) 糸切り。口径8.4~9.1cm、器高0.9~1.2cm。器高が高く底部が厚めで口径がやや小さめなもの(8)と、それ以外の器高が低く扁平なもの二種類ある。

杯 a (15~18) 糸切り。口径12.9~13.5cm、器高2.2~2.8cm。

須恵質土器

鉢 (19) 口縁部を肥厚させつつ、端部をやや内湾させる。内外面に横方向のハケ目を施す。この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類が小片ながら出土している。

138SK050炭層下層出土土器 (Fig. 19)

土師器

小皿 a (1~44) 糸切り。口径7.9~9.3cm、器高0.8~1.5cm。底径がやや小さく、底部が厚めなもの(1・3・5・8・15・26・28)と、器高が低く、扁平なもの二種類がある。

杯 a (45~62) 糸切り。口径12.3~13.6cm、器高2.1~2.9cm。体部はすべてまっすぐに外上方に立ち上がるものである。58は口縁部内面に煤の付着があるため、灯明に使用されたものと思

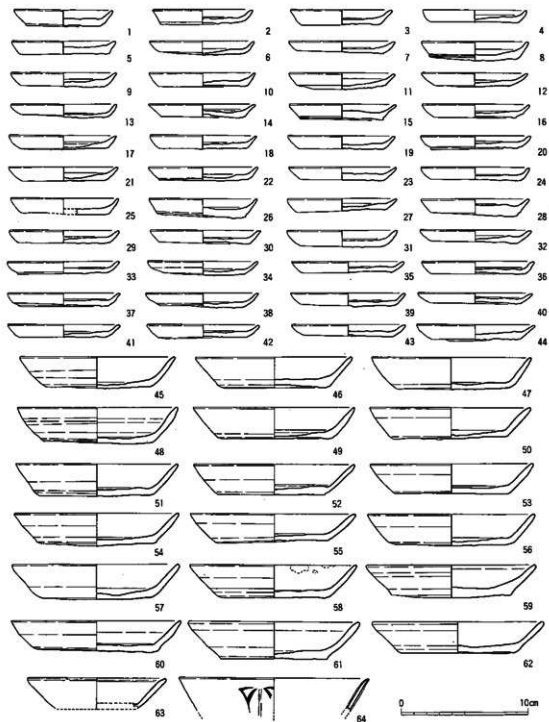


Fig. 19 138SK050灰層下層出土土器実測圖

われる。

#### 白磁

皿 (63) 口径11.0cm。灰白色の粗い胎土で、釉は乳白色でやや厚めである。口縁端部は釉をかきとる。K-1-a類。

#### 龍泉窯系青磁

碗 (64) 口径15.0cm。淡緑色の厚めの釉が内外面に施される。体部外面に鎗蓮弁を削り出すが、釉が厚いためやや不明瞭である。Ⅲ-2類。

この他に図示していないが、白磁碗K類が小片ながら出土している。

138SK059黒色粘質土層出土土器 (Fig.20)

#### 土師器

小皿 a (1~10) 糸切り。口径8.0~9.2cm、器高0.8~1.4cm。器高が高く底部が厚めのものと、器高が低く扁平なものの二種類がある。

杯 a (11~13) 糸切り。口径12.8~13.8cm、器高2.4~2.6cm。体部はほぼまっすぐに外上方に立ち上がる。

鍋 (15) 口縁のみの小片であるが、体部上位で外反し、ほぼ垂直に折り返す。体部外面に多量の煤が付着する。

#### 須恵質土器

鉢 (14) 東播系。体部は口縁部を肥厚させつつ端部でわずかに折り返し、内外面に不定方向のナデを施す。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-5-b類が小片ながら出土している。

138SK063黄灰色土層出土土器 (Fig.20)

#### 土師器

小皿 a (16) 糸切り。口径8.7cm、器高1.0cm。器高が低く扁平な器形である。

杯 a (17) 糸切り。口径12.8cm、器高2.5cm。体部中位でやや内湾する。

#### 須恵質土器

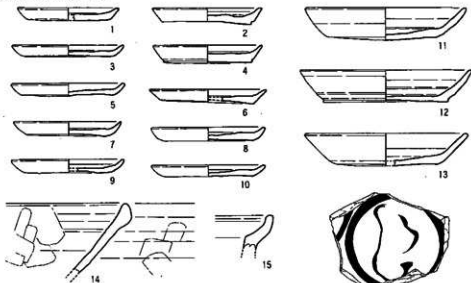
鉢 (18・19) 18は東播系の鉢である。口縁部を肥厚させ端部でわずかに折り返す。19は内面が使用のため磨減する。

#### 龍泉窯系青磁

碗 (20) 底部片であるが内外面に青味がかった緑色の釉がやや厚めに施される。底部は露胎であり高台内面に目跡を有する。内面に櫛目文、内面見込みに文様を片切彫りしている。底径6.0cm。Ⅰ-2類。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-1類、Ⅰ-2-a類、Ⅲ-2類が小片ながら出土している。

138SK059黒色粘土層 (1~15)



138SK063黄灰色砂層 (16~20)



138SK063青灰色砂層 (21~24)

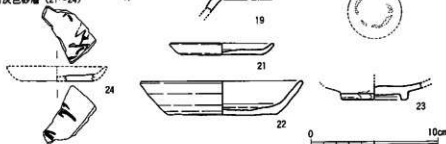


Fig. 20 138SK059・063出土土器実測図

138SK063青灰色土層出土土器 (Fig. 20)

土師器

小皿 a (21・24) 糸切り。21は器高が低く偏平な器形である。口径8.2cm、器高0.9cm。24は底部内外面に墨書がある。小片のため内容は不明であるが、内面は文字を書いたものと考えられる。

杯 a (22) 糸切り。口径12.8cm、器高2.7cm。体部は外上方へ直線的にのびる。

白磁

碗 (23) 底部片である。釉は薄くやや空色がかかった灰白色を呈し、高台部分の大半は施釉されない。底径5.2cm。K-2類。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗 1-6-b類が小片ながら出土している。

138SE040上層出土土器 (Fig.21)

#### 土師器

小皿 a (1~6) 糸切り。口径8.2~9.2cm、器高0.95~1.3cm。

杯 a (7・8) 糸切り。口径12.4~13.0cm、器高2.3~2.75cm。

鍋 (12) 口縁部上面に草木類の圧痕を有する鍋である。

#### 須恵質土器

鉢 (9) 口縁部小破片である。

#### 白磁

皿 (10・11) 10は口径10.6cm、器高1.9cm、底径7.0cm。灰白色で緻密な胎土に、乳灰白色で厚めの釉をかける。施釉は内外面になされるが口縁端部のみ露胎とする。口縁の一部が大きく歪んでいる。K-1-a類。11は口径13.0cm、器高2.4cm、底径8.3cm。器形などは10に近似するが大形の品である。K-1-c類。

他に図示されていないが、同安窯系青磁碗 1-1-a類、皿 1-1類などが小片ながら出土している。

138SE040茶灰色砂質土層出土土器 (Fig.21)

#### 土師器

杯 a (13~15) 糸切り。口径12.2~13.4cm、器高2.6~2.7cm。

羽釜 (17) 内面はハケ目を施す。外面には煤が多量に付着物している。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗 1-4類が小片ながら出土している。

138SE040枠内出土土器 (Fig.21)

#### 土師器

杯 a (16) 糸切り。口径12.7cm、器高2.6cm。

この他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗 1-4類が小片ながら出土している。

138SE042出土土器 (Fig.21)

#### 陶器

鉢 (18) 口縁部を肥厚させ「ハ」字状に外側へ開き、口縁部外面には目跡がある。灰白色で緻密な胎土に、淡緑灰色の釉を内外面に薄く施す。Ⅵ類。

#### 龍泉窯系青磁

碗 (19) 口径16.4cm。やや大きめの鎗蓮弁文をもつ碗である。微細な白色粒子を含む灰白色の胎土に、灰黄緑色で細かな貫入の入る半透明の釉を内外面に施す。口縁部に厚い釉だまりがある。1-5-b類。



138SE045茶色砂質土層出土土器 (Fig.21)

土師器

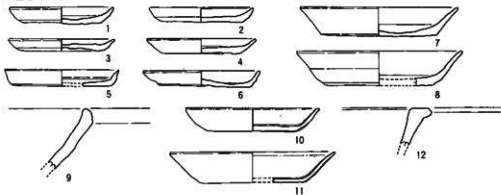
小皿 a (20) 糸切り。口径8.6cm、器高0.95cm。

龍泉窯系青磁

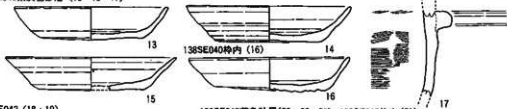
碗 (22) 口径16.8cm。錦蓮弁文の柄である。黒色微粒子をわずかに含む灰白色の胎土に、透明感のある緑灰色の厚い釉を内外に施す。I-5-b類。

陶器

138SE040上層 (1~12)



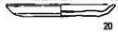
138SE040茶灰色砂層 (13~15・17)



138SE042 (18・19)



138SE045茶色砂層 (20・22・23)



138SE045 鉢内 (21)

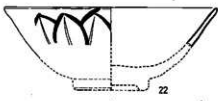
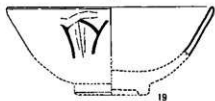
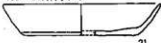


Fig. 21 138SE040・042・045出土土器実測図

23は、底径7.0cm。白色粒子をわずかに含む褐色の胎土に、濃茶褐色の薄い釉を施す。施釉は内外面になされるが底部及び体部外面下位は露胎である。鉢Ⅳ類あるいは水注Ⅴ類と考えられる。

この他に図示していないが、白磁碗Ⅴ-2-b類、Ⅴ-4-b類が小片ながら出土している。

#### 138SE045埴内出土土器 (Fig. 21)

##### 土師器

杯 a (21) 糸切り。口径12.4cm、器高2.5cm。

その他に図示していないが、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-5-b類、同安窯系青磁碗Ⅰ-1-b類が小片ながら出土している。

#### 138SX011出土土器 (Fig. 22)

##### 土師器

杯 a (1) 糸切り。口径11.2cm、器高2.7cm。

羽釜 (2) 内面にハケ目を施す。口縁部小破片。

#### 138SX018出土土器 (Fig. 22)

##### 土師器

小皿 a (3) 糸切り。口径9.0cm、器高1.2cm。

#### 138SX034暗茶色土層出土土器 (Fig. 22)

##### 土師器

小皿 a (4) 糸切り。口径9.0cm、器高1.2cm。

杯 a (5) 糸切り。口径13.2cm、器高2.6cm。

##### 龍泉窯系青磁

碗 (6) 口径13.0cm。やや細めの蓮葉弁文の碗である。微細な白色粒を含む灰灰色の胎土に、草緑色で半透明の釉を厚く施す。Ⅲ-2類。

#### 138SX034暗灰色土層出土土器 (Fig. 22)

##### 土師器

小皿 a (7) 糸切り。口径8.9cm、器高0.75cm。

杯 a (8) 糸切り。口径12.3cm、器高3.0cm。

##### 龍泉窯系青磁

碗 (9) 底径5.8cm。底部内面より四本の沈線が口縁部方向にのび、内底及び体部内面に片切形りの文様を施す。灰白色の胎土に、淡緑茶色の光沢のあるやや薄めの釉を施す。施釉は内外面になされるが、曇付は露胎となる。高台内側に目跡がのこる。Ⅰ-4類。

#### 138SX038出土土器 (Fig. 22)

##### 土師器

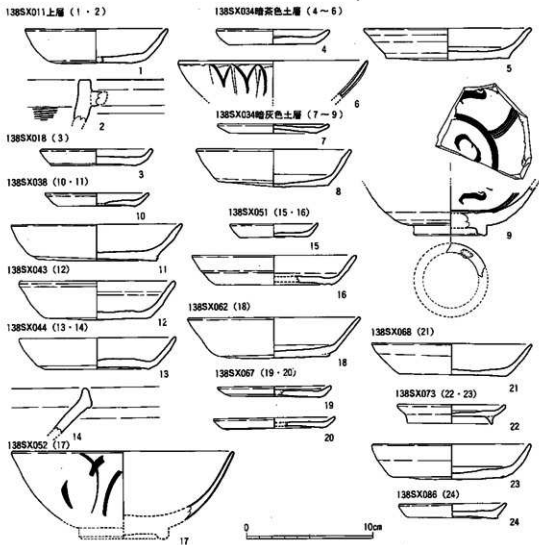


Fig.22 各遺構出土土器実測図

小皿 a (10) 糸切り。口径8.2cm、器高1.1cm。

杯 a (11) 糸切り。口径13.5cm、器高2.9cm。

138SX043出土土器 (Fig.22)

土師器

杯 a (12) 糸切り。口径12.4cm、器高3.1cm。

138SX044出土土器 (Fig.22)

土師器

杯 a (13) 糸切り。口径12.4cm、器高3.1cm。

須恵質土器

鉢 (14) 東播系の鉢の口縁部小破片である。

138SX051出土土器 (Fig. 22)

土師器

小皿 a (15) 糸切り。口径7.0cm、器高1.05cm。

杯 a (16) 糸切り。口径13.0cm、器高2.35cm。

138SX052出土土器 (Fig. 22)

龍泉窯系青磁

碗 (17) 口径17.6cm。やや大きめの蓮弁文をもつ碗である。淡茶灰色のやや粗めの胎土に、暗黄緑色で透明感のある釉を内外面に薄く施す。I-5-a類。

138SX062出土土器 (Fig. 22)

土師器

杯 a (18) 糸切り。口径13.8cm、器高3.2cm。

138SX067出土土器 (Fig. 22)

土師器

小皿 a (19・20) 糸切り。口径9.0~9.6cm、器高0.8~0.85cm。

138SX068出土土器 (Fig. 22)

土師器

杯 a (21) 糸切り。口径12.6cm、器高2.5cm。

138SX073出土土器 (Fig. 22)

土師器

小皿 c (22) 口径8.55cm、器高1.5cm、高台径6.65cm。小皿 a に高台が付く形態である。底部切り離しは不明。

杯 a (23) 糸切り。口径12.5cm、器高2.8cm。体部内面に黒斑がつく。

138SX086出土土器 (Fig. 22)

土師器

小皿 a (24) 糸切り。口径8.6cm、器高1.1cm。

茶色土層出土土器 (Fig. 23)

土師器

小皿 b (1~2) 糸切り。口径6.7~7.0cm、器高1.7~1.75cm。口径が小さく器高が高いため一応小皿 b とした。

小皿 a (3) 糸切り。口径8.8cm、器高1.05cm。

杯 a (4) 糸切り。口径11.8cm、器高3.0cm。

羽釜（5） 口縁部の小破片である。内面にハケ目を施す。外面は煤が多量に付着している。

須恵質土器

鉢（6・7） 6は束播きの片口鉢である。7は播鉢の体部中位の破片である。内面に播目が刻まれる。

白磁

碗（8） 底径7.2cm。灰白色でやや粗めの胎土に、透明感のあるやや厚めの釉を施す。外面残存部は全て露胎で、内面は見込みの釉を輪状に欠き取る。Ⅷ類。

龍泉窯系青磁

碗（9・13） 9は底径5.9cm。灰白茶色でやや粗めの胎土に、淡緑灰色で光沢のない薄い釉を施す。施釉は内外面になされるが、高台及び曼付は露胎である。Ⅰ類。13は口径15.8cmを測る蓮弁文の碗である。やや粗めで灰茶色の胎土に、淡茶緑色で光沢のない釉が内外面に薄くかかる。Ⅰ-5-a類。

杯（10） やや粗めの灰白色の胎土に、淡緑色の釉を内外面に厚くかける。Ⅱ類。

陶器

鉢（11） 口縁部の小破片である。白色砂粒を多く含む淡紫茶色の胎土で、内外面とも無釉である。Ⅰ-1-a類。

茶色土層（1～13）

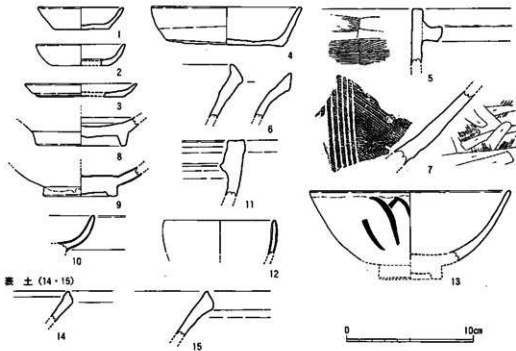


Fig. 23 茶色土層・表土出土土器実測図

小碗(12) 口径4.6cm。乳白色の緻密な胎土に、淡緑色で光沢のある厚い釉が内外面に施される。伊万里焼きと思われる。

表土出土土器 (Fig. 23)

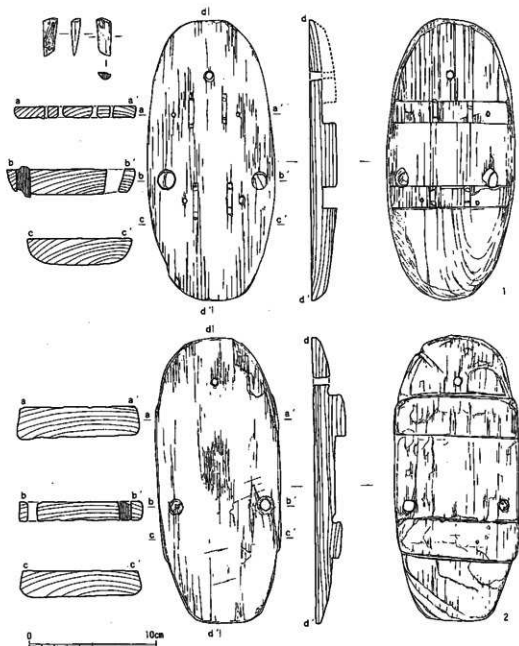


Fig. 24 138SK059出土木製品実測図 I

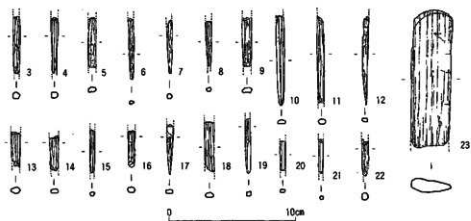


Fig.25 138SK059出土木製品実測図Ⅱ

#### 須恵質土器

鉢 (14・15) 14は東播系の鉢と思われる。15は口縁部の小破片である。

#### その他の出土遺物

木製品 (Fig.24・25)

#### 138SK059出土木製品

下駄 (1・2) 1は歯を別に作りはめ込むものであり、歯を固定するための木釘穴が二箇所とその間に楔穴が二箇所、前後に存在する。また後方の鼻緒孔には、鼻緒のゆるみを防ぐために木の楔が表側から打込まれている。2は一枚の板から削り出して作られたものである。前者と同じように鼻緒孔に楔が打たれる。また後方の歯は著しく磨滅するため、かなりの長期間使用されたものと考えられる。1は全長22.5cm、幅10.1cm。2は全長22.5cm、幅10.2cm。両者とも腐植土層出土。

箸 (3~22) 現存の長さは2.0cm前後であり、両端が欠損するものや先端部を残す破片などがあるが、その接合関係は風化が著しく不明である。腐植土層出土。

木札 (23) 現存する全長は約11.0cm、幅約3.0cm、厚さ約1.0cmを測る。先端は丸く面取りされ、側面も丁寧に削られる。表面の加工は両面ともやや粗めである。文字等の痕跡は認められない。黒色粘質土層出土。

#### 鉄製品 (Fig.26)

鉄 (1) 全長約14cm程度になるもの

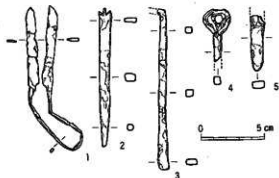


Fig.26 鉄製品実測図

と思われるが、握りの部分で折れ曲がる。茶色土出土。

2は全長約11cm、最大幅約0.9cmを測る鉄製品で、先端部は山形に切り込まれ、断面形状は上部で薄く、胴部に下がるにしたがい厚くなり、いま一方の先端部は方柱状になる。山形を呈する先端部から約4.2cm付近以下で部分的ながら木質が残るため、木の柄がついていたものと考えられる。何らかの工具類と思われる。138SX025炭層出土。3は現存の長さ約12.5cmで、先端部で折れ曲がるがその先を欠損する。欠損部側の断面形は隅丸の正方形であるが、反対側は薄い長方形である。138SD031暗茶色土層出土。4は先端部が環状を呈する製品で、断面形状は四角である。現存の長さは4.5cmである。138SD050暗灰色土層出土。5は現存の長さ約4.5cm、幅約1.0cmを測り、断面形状は長方形を呈する。欠損して全体形状は不明であるが、刀子の一部分の可能性が有る。138SD050炭層出土。

#### 石製品 (Fig. 27)

砥石 (1) 現存長5.5cm、幅4.7cm、厚さ0.9cmを測り、両面を使用している。138SD050暗灰色土層出土。

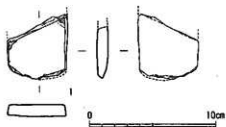


Fig. 27 石製品実測図



## Ⅳ. 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### 1. 試料

花粉分析試料は、138SK059土壌の底部にある腐植物を含んだ土層より採取された試料1点である。一方種実遺体同定用試料は、138SD010溝状遺構、138SK015土壌、138SK031土壌、138SK059土壌の4地点から検出された種実遺体計5点である。なお、138SK059から検出された種実遺体は、花粉分析試料と同一の層から検出されたものである。

### 2. 分析方法

#### 1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウム処理による試料の泥化および腐植酸の溶解、0.25mm篩別による大型物質の除去、重液分離（臭化亜鉛：比重2.2）による有機物の濃集、非水素酸による鉱物質の溶解、アセトリシス処理（無水酢酸：濃硫酸=9:1）によるセルロースの分解の順に行ない、堆積物中から花粉化石を濃集した。

処理後の残渣の一部についてグリセリンで封入してプレパラートを作成し、その中に出現した全ての種類（Taxa）について同定・計数した。

#### 2) 種実同定

138SK059を除く試料については、肉眼あるいは双眼実体顕微鏡にてその種類を同定した。138SK059については、土壌と種実を分離させるため、5%の水酸化ナトリウムを加えて泥化させ、それに篩に通して残渣を集めた。その中から種実遺体を拾い出して同定を行なった。同定した種実遺体は、50%エタノール中に保存した。

### 3. 結果

#### 1) 花粉化石 (Pla. 9)

花粉化石は保存状態が悪く、イネ科20個体、シノキ属・カヤツリグサ科・アカザ科各1個体の計23個体が検出されたにすぎない。

#### 2) 種実遺体 (Pla. 9)

同定の結果、138SD010の試料はモモが3個体、138SK015の試料はモモが13個体、138SK059の試料はトウガンが145個体であった。なお、138SK031の試料は保存状態が悪く、種類を同定できなかった。以下に検出された種類の形態的特徴について記す。

・モモ *Prunus Parsica* Batsch バラ科

核（内果皮）が検出された。褐色。核の形はほぼ円形で、やや扁平である。大きさは3cm程度。丸く大きな臍点がありへこむ。一方の側面のみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、不規

則な線状のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

・トウガン *Benincasa hispida* Cogn. ウリ科

種子が検出された。種子は褐色。長さ1cm程度。長楕円形をしており、種皮は厚く堅い。

#### 4. 古植生について

今回は花粉化石がほとんど検出されなかった。その理由としては、好氣的環境下における分解や埋積速度の早さなどがあげられるが、はっきりとしたことは不明である。

過去に北九州地方で行なわれた花粉分析結果では、奈良・平安時代の山地を中心とした周辺の森林植生は、シイ・カン類など照葉樹を中心とした暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）であったと推測されている（黒田・畑中、1979；三好・伊藤、1980、Hatanaka、1985）。これは先回当社にて報告した結果とも一致しており、おそらく当時の周辺植生はこのような景観だったのであろう。なお、歴史時代に入ると人間が植生破壊を行なうため、マツの植林・二次林が増加する傾向が全国で普遍的にみられる。九州地方ではマツの増加は約1500年前から始まると言われている（Hatanaka、1985）、先回報告した結果にもマツが10%前後認められ、その傾向が覆われる。三好・伊藤（1980）によれば、マツの増加期は約400年前となっているが、これは雲仙の温泉を対象とした結果であるため、地域差などを考慮する必要がある。歴史時代における人間と植生との関わりについては、関東地方では調査例も多くしだいに明らかになりつつある。九州でも今後事例を増やすことによって、詳細な環境変化をとらえてゆくことが必要であると思う。

#### 5. 種実遺体について

今回検出されたモモ・トウガンともに栽培のために渡来した種類である。モモは、古くは縄文時代前期に検出例が知られているが（長崎県伊木力遺跡）、検出例・個体数が増加するのは弥生時代以降である（粉川、1988）。花の観賞用のほか、果実を食用にし、また種子も食べられる。トウガンは果実を食用にする。弥生時代以降に検出例が各地で認められるが、検出地点・検出数ともに少ない（粉川、1988）。これらの栽培種は当時食用として利用されていたものとみられる。

#### 文 献

Hatanaka Ken-ichi (1985) PALYNOLOGICAL STADIES ON THE VEGETATIONAL SUCCESSION THE WURM GLACIAL AGE IN KYUSHU AND ADJACENT AREAS. Journal of the Faculty of Literature, Kitakyushu University (Series B), 18, p. 29-71.

粉川昭平 (1988) 穀物以外の植物食「弥生文化の研究 2 生業」, p. 112-115., 雄山閣

黒田登美雄・畑中健一 (1979) 花粉分析よりみた北九州の過去2万年間の植生変遷. 花粉, 13, p. 3-8

三好教夫・伊藤秀三 (1980) 雲仙・原生沼の花粉分析. 「長崎県環境部 雲仙・原生沼の研究」, p. 19-28.

## V. 調査のまとめ

今回の調査区では、大溝、井戸、土壌のほかピット群等を検出したが、調査範囲が狭小であることから、遺構全体でまとまった成果が得られたとは言えない。しかし周辺の過去の調査成果と併せると若干ながら中世の風景を垣間みることができる。以下、遺構について簡単にまとめることとし、今次の調査の成果としたい。

138SD010は、調査区内では完全な規模を知ることができないほどの大きな溝である。出土した遺物は決して安定した資料群ではないが、白磁皿K類や龍泉窯系青磁などから13世紀後半から14世紀前半頃と考えられる。しかし再埋没土の上層下層で遺物の傾向に変化は認められなかったため、開削の時期を決定することは困難である。

ところでこの溝は、近接して調査された大宰府史跡第33次調査検出のSD605と連続するものである可能性が高い。近似する要因をまとめると、1) 遺構の埋没年代が同じであること、2) 溝の堆積状況が類似していること、3) 今

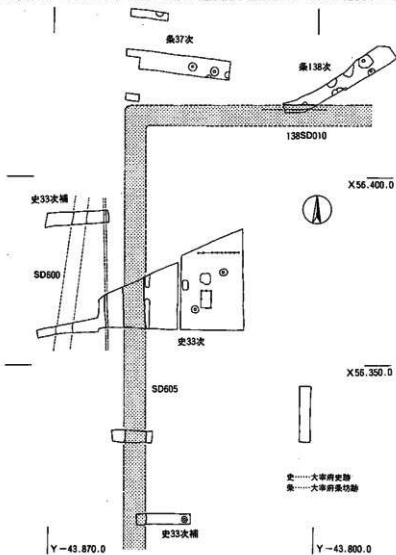


Fig. 28 138次調査と周辺の調査遺構配置図 (1:1,000)

次の調査では確定できなかったものの溝の幅が同じ程度に復原されることなどが掲げられる。この点から復原すると、SD605は現在の西鉄線路下あたりまで北上した後大きく東に折れていることが想定される。未報告ながらこのSD605の北延長線を調査した大宰府条坊跡第37次調査（昭和57年度・太宰府市教育委員会調査）では、SD605の延長は存在していないことが判明しており、今回調査した138SD010がSD605と同一であると判断することを助けている。

さて、SD605について簡単に触れておく。この遺構は、幅5.8m、深さ1.2mを測るもので、補足地点を含めて南北約65m分が確認されている。埋設土中から「貞応三年（1224）」と記載された呪符木簡が発見されており、築造時期を考える資料の一つとして捉えられている。このSD605の西約15mの地点には並行する同時期の溝SD600がある。

また大宰府史跡第33次調査ではSD605に並行して幅の狭い溝がSD600との間に穿たれているが、大宰府条坊跡第37次調査ではやはり確認されておらず、今次の調査で検出した138SD001がその延長部分である可能性が考えられる。この遺構は138SD010よりも新しいことが切り合い関係から判明するが、出土遺物では年代の格差を見い出すには至っていない。しかしながら大溝SD605（138SD010）埋設後、規模を著しく小さくして掘り直したものではないかと考えられる。

いずれにせよこの地区に、区画された大きな空間の存在していたことが判明したわけであり、SD605（138SD010）はこれまで語られていたような大宰府条坊の痕跡ではなく、中世の区画溝の一部であるといえる。

この点からみて今回検出された溝の北側に展開する遺構は、区画の外側ということになる。検出された遺構の大半は、13世紀中頃から14世紀前半の範囲内であり、大溝の時期と同時期と呼べる範囲内である。溝の南側にも同じように遺構は展開しており（大宰府史跡第33次調査）、溝の南北両側に居住空間を想定することが可能である。区画の内側と呼べるのは南側であり、今回の調査区域は区画の外ということになるが、貯蔵穴と思われる土壇138SK020をはじめ、井戸やピットなど生活空間の一部である点では区画の南側と遺構の性格に大きな隔たりは認め難い。遺物組成や遺構規模など、区画溝の内外でどのような違いがあるのかは今後の課題とするほかないが、五条駅周辺にはこの時期の遺構がかなりの範囲で展開しており、周辺の既調査地点の報告および今後実施される予定の周辺での調査に期待することとしたい。

別表 土 師 器 の 法 量

A. 番号 B. 挿入番号 C. 内底のナデの有無 D. 板状圧痕の有無  
 ○× ○×  
 単位: cm

## 138SD001

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (糸)	1	1	8.80	1.50	4.50	?	×
	2	2	7.60	1.20	5.30	○	×
	3	3	7.60	1.60	4.80	○	○
	4	5	7.80	1.50	6.00	○	○
	5	4	7.80	1.80	5.30	○	×
	6	8	8.00	1.00	5.80	○	×
	7	7	8.00	1.40	5.70	?	×
	8	6	8.00	1.40	6.20	?	×
	9	11	8.40	1.25	6.20	○	×
	10	9	8.40	1.40	5.90	○	○
	11	10	8.40	1.50	6.30	○	○
	12	12	9.00	1.50	6.20	○	○
环 a (糸)	1	13	11.20	3.00	7.20	○	○
	2	14	12.80	3.1+	8.20	○	○
	3	15	13.00	3.00	9.80	○	○

## 138SK005

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
环 a (糸)	1	5	12.0+	2.90	8.80	○	○
	2	6	14.20	2.90	9.20	○	○
	3	7	18.00	2.80	9.20	○	○
小皿 a (糸)	1	1	8.00	1.40	4.90	○	○
	2	2	8.00	1.50	6.00	○	○
	3	3	8.40	1.50	5.80	○	○
小皿 b (糸) ?	1	4	7.20	1.70	4.70	○	○

## 138SD010 淡茶灰色土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
环 a (糸)	1	2	12.00	3.40	7.80	○	○
小皿 a (糸)	2	1	9.00	1.10	7.00	○	×

## 138SD010 黒灰色砂土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (糸)	1	11	8.40	1.00	7.50	○	×
	2	8	9.00	1.10	7.50	○	○
	3	9	9.00	1.1+	7.40	×	○
环 a (糸)	1	10	13.00	3.30	10.00	○	○
	2	11	15.00	2.90	9.70	?	?

## 138SD010 灰色土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
环 a (糸)	1	3	13.10	2.80	7.90	○	○
小皿 a (糸)	2	4	8.40	1.20	6.90	○	○

## 138SK015 黒灰色土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (糸)	1	43	8.00	0.90	6.00	○	○
	2	41	8.10	0.90	5.80	○	○
	3	42	8.20	1.00	5.80	○	○

小皿 a (糸)	4	38	8.20	1.10	6.80	○	○
	5	36	8.30	1.30	6.80	○	○
	6	31	8.40	0.95	6.40	○	×
	7		8.40	1.00	6.80	○	×
	8	35	8.40	1.05	6.90	○	○
	9		8.40	1.10	7.00	○	○
	10	39	8.40	1.25	7.00	○	○
	11	34	8.60	1.10	6.40	○	○
	12	1	8.70	0.95	6.90	○	○
	13	33	8.80	1.00	7.00	○	○
	14		8.80	1.20	7.00	○	○
	15	37	8.90	1.00	6.60	○	○
	16		9.00	0.95	7.40	○	○
	17	32	9.00	1.85	7.60	○	○
	18		9.20	1.15	7.40	○	○
	19	40	9.30	1.20	7.70	○	○
环 a (糸)	1	46	9.60	3.05	6.60	○	×
	2	48	12.20	2.30	8.20	○	○
	3	44	12.20	2.50	7.20	○	×
	4	45	12.20	2.70	9.20	○	○
	5	47	12.60	2.35	7.70	○	○

## 138SK015 淡茶色土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (糸)	1		8.40	1.05	7.20	○	○
	2		8.60	0.95	7.00	○	○
	3		8.60	1.00	6.80	○	×
	4		8.80	1.35	6.80	○	○
	5		8.80	1.40	7.00	○	○
	6	1	9.00	0.90	7.40	○	×
	7		9.00	1.20	6.80	○	○
环 a (糸)	1		12.00	1.95	9.00	○	○
	2		12.80	2.20	9.00	○	○
	3	2	13.00	2.75	8.60	○	○
	4		13.60	2.65	9.20	○	○

## 138SK015 暗茶色土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (糸)	1	5	8.00	0.90	6.20	○	○
	2		8.00	1.05	6.60	○	○
	3		8.20	1.05	6.80	○	○
	4		8.20	1.10	6.60	○	○
	5		8.20	1.20	6.20	○	○
	6	7	8.40	1.05	6.60	○	○
	7		8.40	1.10	7.20	○	○
	8	6	8.40	1.20	7.00	○	○
	9	8	8.40	1.20	7.50	○	○
	10		8.40	1.75	6.80	○	○
	11	9	8.50	1.05	6.50	○	○
	12	12	8.60	0.95	7.30	○	×
	13	10	8.60	1.00	6.70	○	○

小皿 a (糸)	14	13	8.60	1.10	7.20	○	○
	15	11	8.60	1.30	7.40	○	○
	16	15	8.80	1.30	7.30	○	○
	17	14	8.80	1.40	7.20	○	○
	18	17	9.00	1.00	7.50	○	○
	19		9.00	1.00	7.60	○	○
	20	18	9.00	1.25	8.00	○	○
	21	19	9.00	1.30	7.60	○	○
	22	16	9.00	1.35	7.20	○	○
	23	20	9.20	1.30	7.50	○	○
	24	21	9.30	1.20	7.10	○	○
	25	22	9.40	0.80	8.20	○	○
	26		9.40	1.10	7.20	○	○
	27	23	9.40	1.20	8.20	○	○
环 a (糸)	1	24	12.20	2.40	8.30	○	○
	2	25	12.40	2.60	8.60	○	○
	3		12.60	2.55	8.80	○	○

1385K020暗茶灰色土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (糸)	1	8	7.80	1.00	6.90	○	○
	2	10	8.00	1.00	6.20	○	○
	3	11	8.00	1.20	6.30	○	×
	4	9	8.00	1.20	6.40	○	○
	5	12	8.40	1.00	6.60	○	×
	6	14	8.60	1.20	6.60	○	○
	7	13	8.60	1.40	6.60	○	×
	8	16	9.00	0.80	7.60	○	○
	9	15	9.00	0.90	7.40	○	○
	10	19	9.00	1.20	7.80	×	×

1385K031黒灰色砂土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (糸)	1		7.60	2.00	6.00	○	○
	2	25	8.50	1.00	6.65	○	○
	3		8.60	1.00	7.00	○	×
	4		8.80	1.50	6.80	○	○
	5	24	8.70	0.80	7.05	○	○
	6		8.80	1.10	6.80	○	×
	7		8.80	1.10	7.00	○	×
	8		8.80	1.50	6.30	○	○
	9		9.00	0.90	7.00	○	○
	10		9.00	1.00	6.60	○	○
	11		9.00	1.00	7.00	○	○
	12		9.20	0.90	7.00	○	○
	13		9.20	1.10	7.40	○	○
	14		9.60	1.30	8.00	○	○
环 a (糸)	1	26	12.60	2.50	8.40	○	○
	2		12.60	2.70	8.00	○	×
	3		12.60	2.70	8.00	○	○
	4		12.60	2.40	9.00	○	○
	5		13.00	2.50	8.80	○	○
	6	27	13.20	2.40	8.70	○	○
	7		13.60	2.80	8.20	○	○

1385K031暗茶色土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (糸)	1		8.20	1.05	6.80	○	○
	2	2	8.30	1.25	6.75	○	○
	3	1	8.60	1.00	7.80	○	○
	4		8.60	1.20	6.40	○	○
	5		8.80	1.00	7.00	○	○
	6		8.80	1.05	5.80	○	○
	7		8.80	1.10	7.00	○	○
	8	3	8.80	1.30	6.80	○	○
	9		9.00	0.85	7.60	○	○
	10	4	9.00	1.20	6.60	○	○
	11		9.00	1.45	7.40	○	○
	12		9.20	1.20	7.60	○	○
	13	5	9.80	1.10	8.35	○	○
环 a (糸)	1		11.80	2.50	9.00	○	○
	2	6	13.40	2.30	9.20	○	×
	3	7	13.40	2.60	9.05	?	○

1385K031黒灰色土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (糸)	1		8.00	0.85	6.60	○	○
	2		8.20	1.00	6.30	○	○
	3		8.20	1.05	6.40	○	○
	4		8.20	1.10	6.60	○	○
	5		8.20	1.20	6.60	○	×
	6		8.40	0.80	7.00	○	○
	7	2	8.40	1.10	6.80	○	○
	8	13	8.50	1.05	7.00	○	○
	9		8.50	1.10	7.10	○	○
	10		8.60	0.85	6.30	○	○
	11		8.60	0.90	6.50	○	○
	12	14	8.60	0.90	7.40	○	○
	13		8.60	1.20	6.10	○	○
	14		8.60	1.20	7.40	○	×
	15		8.60	1.25	6.50	○	○
	16		8.60	1.30	7.00	○	○
	17	15	8.70	1.30	6.70	○	×
	18	16	8.80	1.10	6.90	○	○
	19		8.80	1.20	6.30	○	○
	20		8.80	1.30	7.00	○	○
	21		8.80	1.40	6.90	○	○
	22		8.90	1.00	6.40	○	○
	23		9.00	1.05	6.50	○	×
	24		9.00	1.10	6.60	○	○
	25		9.00	1.10	7.00	○	○
	26	18	9.00	1.15	7.30	○	○
	27	17	9.00	1.25	6.60	○	×
	28	19	9.20	0.90	7.60	○	○
	29		9.20	1.20	6.70	○	○
	30		9.60	1.10	8.80	○	×
	31		9.80	1.50	7.10	○	○
环 a (糸)	1		12.80	2.50	9.00	○	○
	2		12.80	2.50	9.00	○	○
	3		12.80	2.60	8.50	○	○
	4		13.60	2.30	10.00	○	○

## 138SE035暗茶灰色土

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	2	8.20	1.15	6.50	○	○
	2	1	8.20	1.30	6.20	○	○
	3	3	8.40	0.95	7.40	○	○
	4	4	8.80	1.15	8.20	○	×
	5	5	9.00	1.30	8.00	○	×
	6	6	9.20	1.20	8.40	○	○
环 a (糸)	1	7	12.40	2.30	9.10	○	×
	2	8	13.00	2.75	8.60	○	×

## 138SE040种内

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
环 a (糸)	1	16	12.70	2.60	8.90	○	○

## 138SE040茶灰色砂

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
环 a (糸)	1	13	12.20	2.60	8.20	○	○
	2	14	13.00	2.70	8.40	○	○
	3	15	13.40	2.6+	8.40	○	○

## 138SK050暗灰色土

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1		8.00	1.10	6.00	○	○
	2		8.20	1.10	6.20	○	○
	3		8.40	1.05	6.40	○	○
	4		8.40	1.35	6.70	○	○
	5		8.60	1.00	6.40	○	○
	6	1	8.60	1.00	6.80	○	○
	7		8.60	1.00	7.00	○	○
	8		8.60	1.00	7.00	○	○
	9		8.80	0.90	6.60	○	○
	10		8.80	0.95	7.00	○	○
	11		8.80	0.95	7.20	○	○
	12		8.80	1.05	6.40	○	○
	13		8.80	1.10	6.40	○	○
	14		8.80	1.10	7.00	○	○
	15	3	8.90	0.80	7.40	○	○
	16		8.90	1.00	6.80	○	○
	17		9.00	0.95	7.20	○	○
	18	5	9.00	1.00	7.60	○	○
	19		9.00	1.05	7.20	○	○
	20		9.00	1.10	7.20	○	○
	21		9.00	1.20	7.00	○	○
	22	2	9.00	1.30	7.40	○	○
	23	4	9.40	1.30	7.70	○	○
环 a (糸)	1		12.40	2.20	8.60	○	○
	2		12.40	2.20	9.00	○	○
	3	6	12.80	2.30	8.80	○	○
	4	7	13.80	2.40	9.00	○	○

## 138SK050暗灰色土下層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1		8.60	0.90	7.00	○	○
	2		8.60	0.95	6.40	○	○
	3		9.00	1.25	7.20	○	○
	4		9.20	0.96	7.30	○	○
环 a (糸)	1		13.00	2.70	8.80	○	○
	2	3	13.00	2.70	9.00	○	○
	3	1	13.00	2.90	8.80	○	×
	4	2	13.20	2.50	8.45	○	○

## 138SK050炭層下層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1		7.90	1.20	6.10	○	○
	2		8.00	1.20	6.80	○	○
	3	3	8.10	1.20	6.30	○	×
	4	4	8.20	1.00	6.90	○	○
	5		8.20	1.05	6.80	○	○
	6		8.20	1.40	6.20	○	○
	7	5	8.30	1.00	7.20	○	○
	8	6	8.30	1.10	6.60	○	○
	9	7	8.40	0.80	6.90	○	○
	10		8.40	0.95	8.20	○	○
	11	13	8.40	1.00	6.90	○	○
	12	12	8.40	1.10	6.00	○	○
	13	9	8.40	1.10	6.80	○	○
	14	10	8.40	1.10	7.00	○	○
	15	11	8.40	1.20	7.00	○	○
	16	8	8.40	1.50	7.10	○	○
	17	16	8.50	1.00	6.60	○	○
	18	19	8.50	1.00	6.90	○	○
	19	14	8.50	1.10	6.70	○	○
	20	17	8.50	1.10	6.90	○	○
	21	18	8.50	1.10	7.10	○	×
	22	15	8.50	1.20	6.70	○	×
	23		8.60	0.90	6.40	○	○
	24		8.60	0.90	6.60	○	○
	25		8.60	0.90	6.60	○	○
	26		8.60	0.90	7.20	○	○
	27		8.60	0.95	7.00	?	○
	28		8.60	0.95	7.20	○	○
	29	23	8.60	1.00	6.70	○	×
	30	20	8.60	1.00	6.90	○	○
	31	27	8.60	1.00	7.00	○	○
	32		8.60	1.00	7.00	○	○
	33	24	8.60	1.00	7.10	○	○
	34		8.60	1.05	6.60	○	○
	35		8.60	1.05	6.80	?	○
	36		8.60	1.05	7.00	○	○
	37	21	8.60	1.10	6.50	○	○
	38		8.60	1.10	6.60	○	○
	39		8.60	1.10	7.00	○	○
	40	22	8.60	1.10	7.10	○	○
	41		8.60	1.15	6.80	○	○
	42		8.60	1.15	6.80	○	○

小皿 a (糸)								
43		8.60	1.30	6.60	○	○		
44	26	8.80	1.30	7.10	○	○		
45	28	8.60	1.40	6.90	○	×		
46	25	8.60	1.40	7.00	○	×		
47		8.70	1.00	6.70	○	○		
48	29	8.70	1.00	7.40	○	○		
49	30	8.70	1.10	7.20	○	○		
50	32	8.80	0.90	6.70	○	○		
51		8.80	0.90	6.80	○	○		
52		8.80	0.90	7.00	○	○		
53		8.80	0.95	6.80	○	○		
54		8.80	0.95	7.00	○	○		
55		8.80	0.95	7.00	○	○		
56		8.80	0.95	7.20	○	○		
57		8.80	0.95	7.20	○	○		
58		8.80	1.00	6.80	○	○		
59	33	8.80	1.00	7.20	○	○		
60		8.80	1.05	7.00	○	○		
61		8.80	1.05	7.00	○	○		
62	34	8.80	1.10	6.90	○	○		
63		8.80	1.10	7.20	○	○		
64		8.80	1.25	7.00	○	○		
65		8.80	1.25	7.00	×	×		
66	31	8.80	1.30	7.60	○	○		
67	35	8.90	0.90	7.30	○	○		
68	41	8.90	1.00	7.20	○	○		
69	37	8.90	1.00	7.20	○	○		
70	36	8.90	1.00	7.50	○	○		
71	38	8.90	1.10	6.80	○	○		
72		8.90	1.15	7.40	○	○		
73	40	9.00	0.80	7.00	○	○		
74		9.00	0.85	7.40	○	○		
75		9.00	0.90	7.00	○	○		
76		9.00	0.90	7.00	○	○		
77		9.00	0.90	7.20	○	○		
78		9.00	0.95	7.00	○	○		
79		9.00	0.95	7.00	○	○		
80		9.00	0.95	7.40	○	○		
81		9.00	1.00	7.20	○	○		
82	39	9.00	1.00	7.40	○	○		
83	42	9.00	1.10	7.00	○	○		
84		9.00	1.10	7.60	○	○		
85		9.00	1.20	6.80	○	○		
86	43	9.00	8.00	7.00	○	○		
87		9.20	0.85	7.10	○	○		
88		9.20	0.90	7.20	○	○		
89		9.20	0.95	7.80	○	○		
90		9.20	1.00	7.80	○	○		
91		9.20	1.05	7.20	○	○		
92		9.20	1.05	7.60	○	○		
93		9.20	1.10	7.20	○	○		
94		9.20	1.15	7.00	○	○		
95	44	9.30	1.20	6.90	○	○		
96		9.40	1.10	7.40	○	○		

环 a (糸)								
1	45	12.30	2.50	8.20	○	○		
2	46	12.40	2.40	8.20	○	○		
3		12.40	2.60	8.40	○	○		
4		12.40	2.60	8.80	○	○		
5		12.40	2.60	9.00	○	○		
6		12.60	2.30	9.20	○	○		
7	47	12.60	2.50	9.00	○	○		
8		12.60	2.50	9.00	○	○		
9	50	12.70	2.50	9.00	○	○		
10	48	12.70	2.80	8.70	○	○		
11	52	12.80	2.40	8.40	○	○		
12	49	12.80	2.50	8.70	○	○		
13		12.80	2.50	8.70	○	○		
14		12.80	2.60	8.70	○	○		
15	51	12.80	2.80	9.10	○	○		
16		12.80	2.70	8.40	○	○		
17	53	12.90	2.40	9.20	○	○		
18		13.00	2.50	9.40	○	○		
19		13.00	2.80	8.20	○	○		
20	54	13.00	2.80	8.60	○	○		
21		13.00	2.70	9.40	○	○		
22	55	13.10	2.10	9.00	○	○		
23	56	13.20	2.50	8.90	○	○		
24		13.20	2.50	9.20	○	○		
25	58	13.20	2.60	8.20	○	○		
26		13.20	2.60	9.00	○	○		
27		13.20	2.70	9.20	○	○		
28		13.20	2.75	9.00	○	○		
29	57	13.20	2.80	8.40	○	○		
30	60	13.40	2.40	9.80	○	○		
31		13.40	2.50	9.20	○	○		
32	59	13.40	2.60	9.40	×	○		
33		13.40	2.70	8.20	○	○		
34		13.40	2.70	8.40	○	○		
35	62	13.60	2.50	8.90	○	○		
36	61	13.60	2.90	8.40	×	×		

138SK050 炭層

部 番	A	B	口 径	部 高	底 径	C	D
小皿 a (糸)	1		7.80	1.05	6.20	○	○
	2		8.40	0.85	7.00	○	○
	3		8.40	0.95	7.00	○	○
	4	4	8.40	1.10	7.20	○	○
	5		8.40	1.20	6.40	○	○
	6		8.60	0.90	6.60	○	○
	7		8.60	0.90	6.60	○	○
	8	5	8.60	0.90	6.70	○	○
	9		8.60	0.90	6.90	○	○
	10		8.60	0.90	7.10	○	○
	11		8.60	1.00	6.80	○	○
	12		8.60	1.00	6.90	○	○
	13		8.60	1.05	6.80	○	○
	14		8.60	1.05	6.80	○	○
	15		8.60	1.05	6.80	○	○
	16		8.60	1.05	7.30	○	○



小皿 a (米)	17		8.60	1.05	7.40	○	○
	18	6	8.60	1.10	6.80	○	○
	19		8.60	1.15	6.80	○	○
	20	7	8.70	0.90	7.10	○	○
	21	8	8.70	1.20	6.80	○	×
	22		8.80	0.95	6.80	○	○
	23	10	8.80	1.00	7.00	○	○
	24		8.80	1.00	7.00	○	○
	25		8.80	1.00	7.00	○	○
	26	12	8.80	1.00	7.10	○	○
	27		8.80	1.00	7.20	○	○
	28	11	8.80	1.05	6.80	○	○
	29		8.80	1.05	6.80	○	○
	30		8.80	1.05	6.80	○	○
	31		8.80	1.05	7.00	○	○
	32		8.80	1.05	7.10	○	○
	33		8.80	1.10	6.80	○	○
	34		8.80	1.10	7.00	○	○
	35		8.80	1.10	7.00	○	○
	36	13	8.90	1.00	7.40	○	○
	37		9.00	0.90	6.80	○	○
	38		9.00	0.90	6.80	○	○
	39		9.00	0.95	6.80	○	○
	40		9.00	0.95	6.80	○	○
	41		9.00	0.95	7.10	○	○
	42		9.00	1.05	7.00	○	○
	43		9.00	1.05	7.00	○	○
	44		9.00	1.05	7.20	○	○
	45	9	9.00	1.10	6.90	○	○
	46		9.00	1.10	7.00	○	○
	47		9.00	1.10	7.20	○	○
48		9.00	1.15	6.80	○	○	
49		9.00	1.25	6.80	○	○	
50	14	9.10	0.90	7.40	○	○	
51		9.20	0.85	7.30	○	○	
52		9.20	0.90	7.00	○	○	
53		9.20	0.90	7.20	○	○	
54		9.20	1.00	7.20	○	○	
55		9.20	1.05	7.20	○	○	
56		9.20	1.10	7.00	○	○	
57		9.20	1.10	7.20	○	○	
58		9.20	1.15	7.20	○	○	
59		9.20	1.50	7.00	○	○	
环 a (米)	1	15	12.90	2.50	8.30	○	○
	2	16	12.90	2.80	8.70	○	○
	3	17	13.00	2.20	9.00	○	○
	4	18	13.50	2.70	9.80	○	○

## 138SK059黑色粘土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (米)	1	1	8.0+	1.00	6.80	○	○
	2		8.20	1.00	6.60	○	○
	3		8.20	1.00	6.60	○	○
	4		8.40	0.95	6.60	○	○
	5	7	8.50	1.00	6.30	○	○
	6		8.60	1.10	6.60	○	○
	7	2	8.60	1.10	7.00	○	○
	8	4	8.60	1.40	7.60	○	○
	9	3	8.80	0.80	6.60	○	○
	10		8.80	0.80	7.00	○	○
	11	9	8.90	1.10	6.90	○	○
	12	10	9.00	0.90	7.10	○	○
	13	5	9.00	1.00	7.40	○	○
	14	8	9.00	1.05	7.00	○	○
	15		9.20	1.00	7.30	○	○
	16	6	9.20	1.00	7.30	○	×
	17		9.20	1.05	7.00	○	○
	18		9.20	1.05	7.20	○	○
	19		9.20	1.10	7.00	○	×
环 a (米)	1	1	12.80	2.50	7.80	○	○
	2	11	12.80	2.60	8.50	○	○
	3	13	12.90	2.60	8.10	○	○
	4		13.40	2.30	9.40	○	○
	5		13.60	2.45	8.60	○	○
	6	12	13.80	2.40	9.90	○	○
	7		14.60	2.50	9.60	○	○

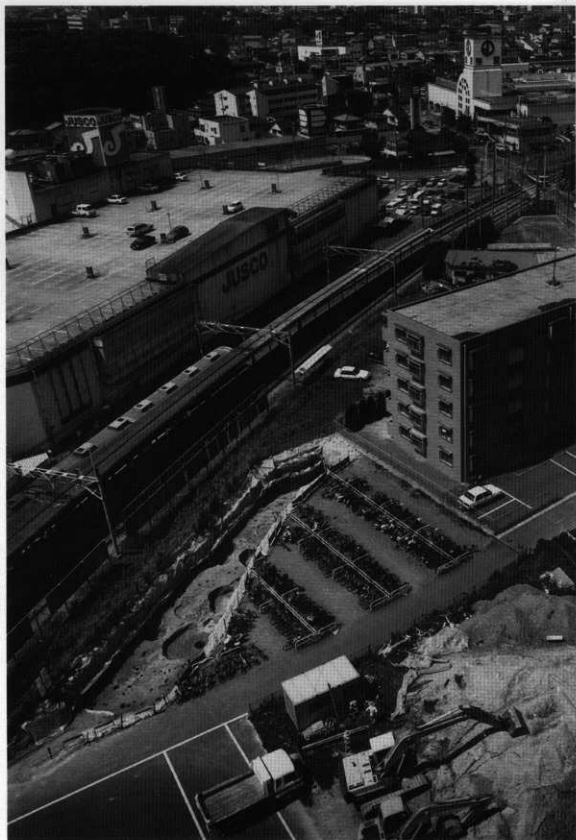
## 138SK063黄灰色土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (米)	1	17	8.70	1.00	7.10	○	○
环 a (米)	1	16	12.80	2.50	8.40	○	○

## 138SK063青灰色土

器 種	A	B	口 径	器 高	底 径	C	D
小皿 a (米)	1	21	8.20	0.90	6.60	○	○
环 a (米)	1	22	12.80	2.70	8.60	○	○

# PLATES



大宰府桑坊跡第138次調査地及びその周辺（空中写真）



第138次調査全景（空中写真・上が南）



第138次調査地部分（空中写真・上が南）



第138次調査部分（空中写真・上が南）



第138次調査部分（空中写真・上が南）



調査区全景（東から）



調査区全景（西から）



138SD001（西から）



138SD010（西から）



138SK020 (東から)



138SK020土層観察 (南から)



138SK050他 (西から)



138SK050他土層観察 (南から)

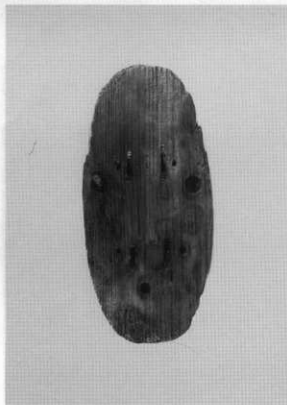




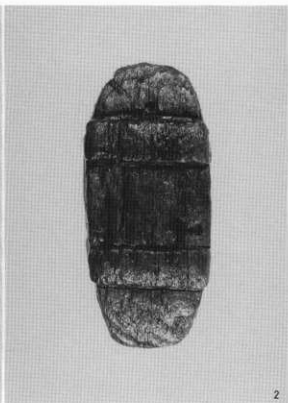
138SK050土器出土状況（東から）



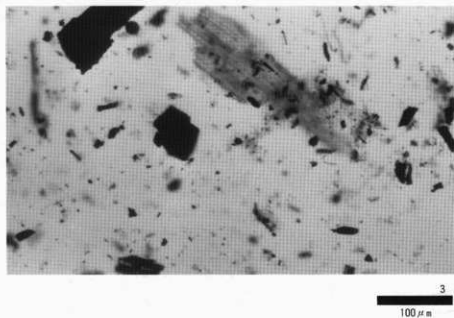
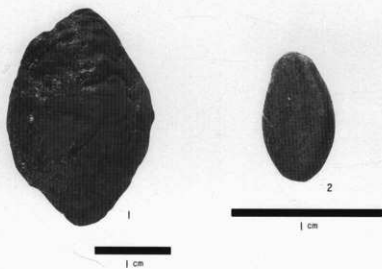
138SE040（北から）



1



2



1. モモ (138SK015黒灰色土)。 2. トウガン (138SK031黒灰色砂土)。  
3. 花粉分析残渣の状況 (138SK031黒灰色砂土)

## 大宰府条坊跡 VI

—西日本鉄道五条駅舎改革に伴う—  
埋蔵文化財発掘調査報告書

—大宰府市の文化財 第23集—

1994.3.25

発行 大宰府市教育委員会  
大宰府市観世音寺1丁目1番1号  
印刷 有限会社 システム・レコ  
福岡市東区土井1丁目11番7号